

授業科目名(英文名) / Course title	はじめての経済学 / Introduction to Economics				
担当教員(所属) / Instructor	モヴシユク・オレクサンダー(経済学部経済学科)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 後期 月/Mon 2	対象所属 / Eligible Faculty	1年(人文), 1年(発達), 2年(人文), 2年(理,工), 2年(発達), 2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	102113	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact					
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours					
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
この授業では、日常生活でよく見られる様々な基本的経済データについて、いかに解釈するかを学ぶことを目的とする。講義の前半において、経済データの収集方法と統計学の基礎を学習した後で、基本的な国内・国際経済データの読み方を習得する。同時に、学生が興味を持っている経済・経営データを調べるために、講義の最初で学生に対しアンケートを行う。そしてそのアンケート結果に基づき、後半に学習するテーマを選択する。					
達成目標 / Course Goals					
この授業により、学生は、第一に、統計学の基礎、経済・経営データの収集方法、およびこのようなデータの解釈方法を習得できることを目標とする。第二に、MS Excelを使ったデータ処理方法を学ぶことを目標とする。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
前半の授業計画は次の通りとなる。(1)統計とは(統計の見方、センサスと標本調査、平均と標準偏差、比率の見方・使い方、指数の見方・使い方、季節調整等)、(2)経済成長と景気(経済成長、投資、消費、インフレ・デフレ等)、(3)経済政策(景気対策、財政政策、金融政策、経済構造改革)、(4)産業構造(産業構造、生産性等)、(5)国際経済(経済のグローバル化、世界の貿易体制、日本の貿易、アメリカ経済、東アジア経済、ヨーロッパ経済、経済協力、地域経済統合)、(6)経済関連指標(GDP、景気動向、消費関連指標、物価指数、雇用関連指標)。後半の講義内容は、学生アンケートの結果に基づいて決定する。授業では学習支援システム(Moodle)を利用。この利用方法については講義中に説明する。					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
毎回の講義で選択クイズ形式の宿題を課すので行うこと。					
キーワード / Keywords					
履修上の注意 / Notices	毎回の講義で選択クイズ形式の宿題を提出すること。数学やパソコンの知識は必要ない。				
教科書・参考書等 / Textbooks	使用テキスト:『経済指標のかんどころ2006年』、発行:富山県統計協会、2006年改訂23版。 リンク: http://www.cap.or.jp/~kandokoro/2006/index.html 参考書:『日本統計年鑑 平成25年』、発行:総務省統計局、リンク: www.stat.go.jp/data/nenkan (資料配布する)				
成績評価の方法 / Evaluation	宿題(40%), 期末試験(60%)。				
関連科目 / Related course					
リンク先URL / URL of syllabus or other information					
備考 / Notes					

授業科目名(英文名) / Course title	地球と環境 / The Earth and Its Environment				
担当教員(所属) / Instructor	堀川 恵司(理学部生物圏環境科学科)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	地域志向科目	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 後期 月/Mon 2	対象所属 / Eligible Faculty	1年(人文), 1年(発達), 2年(人文), 2年(理,工), 2年(発達), 2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	102114	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact					
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours					
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
Moodle上にアップした授業スライドを事前に印刷して授業に臨むこと。					
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
地球の成因および地球の構造に関する基礎的な知識と理解を身につけ, 46億年間の地球表層環境の変化を理解し, 自然災害および地球環境問題に関する科学的な視点を養う。					
達成目標 / Course Goals					
<ul style="list-style-type: none"> 地球がどのような物質から構成されているか理解する 地球内部・表層ではどのような活動や物質循環が過去から現在まで進行しているか理解する 地球の大気や海洋の化学組成がどのように変化してきたか理解する 人間活動によってもたらされた環境問題を理解する 現在進行している地球温暖化について理解を深め、地球温暖化問題に対する様々な取り組みを学ぶ。 					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
1 オリエンテーション(講義の概要説明) 2 地球の構成 3 地球と生命の歴史 4 地球と生命の歴史 5 大気と環境 6 大気と環境 7 水と環境 8 水と環境 9 地球環境の変遷 10 地球環境の変遷 11 地球環境の変遷 12 鉱物資源 13 温泉、地熱資源 14 地球温暖化問題 15 地球温暖化問題					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
Moodle上にアップした授業スライドを復習し、授業内容だけでなく専門用語についても理解を深めること。					
キーワード / Keywords	地球温暖化、酸性雨問題、重金属、水質汚染、土壌汚染、化石エネルギー、温泉、地熱、レアメタル、海底鉱物資源、メタンハイドレート、気候変動、南極、グリーンランド				
履修上の注意 / Notices	パワーポイントを用いた講義をしますので、ノートを取る際に各自の工夫が必要です。				
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書は使用しません。参考書や文献は随時授業で紹介します。				
成績評価の方法 / Evaluation	出席回数が10回に満たない学生は評価しない。 授業中に行う複数回の小テストの結果で成績を評価する。				
関連科目 / Related course					
リンク先URL / URL of syllabus or other information	http://www3.u-toyama.ac.jp/horikawa/Home.html				
備考 / Notes					

授業科目名(英文名) / Course title	生命の世界 / Biological Science				
担当教員(所属) / Instructor	土田 努(理学部生物学科), 山本 将之(理学部生物学科), 伊野部 智由(工学部生命工学科)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 後期 月/Mon 2	対象所属 / Eligible Faculty	1年(人文), 1年(発達), 2年(人文), 2年(理, 工), 2年(発達), 2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	102115	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	土田 努(tsuchida(AT)sci.u-toyama.ac.jp メール送信の際に、(AT)を@に変更) 山本 将之(mpyama(at)sci.u-toyama.ac.jp (送信の際に、(AT)を@に変更してください。))				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	土田 努(面談時間を決めるので、メールで問い合わせてください) 山本 将之(事前にメールで問い合わせてください。)				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
本講義では、動物や植物などのマクロレベルの生物学から、遺伝子やタンパク質などのミクロレベル生物学まで、幅広く生命の世界を俯瞰します。生命の設計図であるミクロな遺伝子が、どのようにしてマクロレベルの生物学に結びつくのかイメージできるようになることを目指します。					
達成目標 / Course Goals					
1、遺伝子の仕組みを理解すること。 2、タンパク質の形は働きを理解すること。 3、生物間相互作用を理解すること。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
(山本担当分) 第1週: 授業ガイダンス/イントロダクション: 作物育種における生物学と分子遺伝学の基礎 第2週: 作物の起源と栽培化 第3週: 作物の育種と育種技術 第4週: 遺伝子組換え作物 第5週: 作物育種に関する最近のトピックス (土'田担当分) 第6週: イントロダクション・共生とは何か? 第7週: 生態系を構成する共生関係 第8週: 微生物との共生関係 第9週: 昆虫と微生物との密接な共生関係 第10週: 人の生活と共生・理解力テスト (伊野部担当分) 第11週: 身の回りにあるタンパク質 第12週: タンパク質の形 第13週: タンパク質の働き 第14週: タンパク質をつくる・改造する 第15週: タンパク質が開く未来・理解力テスト					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
事前学習: 前回までの配付資料, 授業ノートに目を通しておくこと 事後学習: 当日の講義ノートをまとめておくこと。随時、課題を課すのでレポートを作成すること。					
キーワード / Keywords	(山本担当分) 作物、遺伝、分子生物学 (土'田担当分) 生物間相互作用、共生、微生物 (伊野部担当分) タンパク質、酵素				
履修上の注意 / Notices	5回以上欠席した場合や、遅刻が著しく多い場合は、評価にかかわらず不可とする。				
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書の指定なし。配布資料を中心に講義を進める。				
成績評価の方法 / Evaluation	各担当教員ごとに3等分に配点し、それぞれ受講態度と、試験(伊野部、土'田担当分)、レポート(山本担当分)を総合して評価する。				
関連科目 / Related course					
リンク先URL / URL of syllabus or other information					

授業科目名(英文名) / Course title	化学物質の世界 / World of Chemical Substances				
担当教員(所属) / Instructor	鈴木 炎(理学部化学科)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 後期 月/Mon 2	対象所属 / Eligible Faculty	1年(人文), 1年(発達), 2年(人文), 2年(理,工), 2年(発達), 2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	102116	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	鈴木 炎(A418 (076-445-6621))				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	鈴木 炎(水曜 12:00~13:00, メールで事前連絡してから訪問すること)				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
理学部以外の学生を対象に、初等的な一般化学の講義を行う。特に物理化学・熱力学に重点を置く。化学を専門としない学生にとっても化学の知識が重要であり、将来の学際的・独創的研究に役立つことを理解してもらう。					
達成目標 / Course Goals					
化学を専門としない学生にとっても化学の知識が重要であり、将来の学際的・独創的研究に役立つことを理解する。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
<p>黒板を用いる。授業計画：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 化学とは何か？ 2. 熱力学とエントロピーの発見：カルノー 3. 熱力学とエントロピーの発見：クラウジウス 4. 熱力学とエントロピーの発見：ケルヴィン 5. 熱力学とエントロピーの発見：まとめ 6. 統計力学と原子の発見：ボルツマン 7. 統計力学と原子の発見：マクスウェル 8. 統計力学と原子の発見：ギブズ 9. 統計力学と原子の発見：アインシュタイン 10. 統計力学と原子の発見：まとめ 11. 量子化学：原子の構造 12. 量子力学：分子の構造 13. ギブズエネルギー 14. 化学ポテンシャル 15. まとめ 					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
講義の該当部分を予習・復習する。					
キーワード / Keywords	一般化学 物理化学 熱力学				
履修上の注意 / Notices	人文・人間発達学部の学生を対象とする。				
教科書・参考書等 / Textbooks	参考書： 鈴木 炎, 「エントロピーをめぐる冒険：初心者のための統計熱力学」, 講談社ブルーバックス (2014). (ISBN 4062578948)				
成績評価の方法 / Evaluation	小テストまたはレポート(配分100%)で評価する。評価基準：得点60%以上を合格とする。				
関連科目 / Related course					
リンク先URL / URL of syllabus or other information					
備考 / Notes					

授業科目名(英文名) / Course title	日本の歴史と社会 / Japanese History				
担当教員(所属) / Instructor	高橋 浩二(人文学部)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	地域志向科目	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 後期 火/Tue 1	対象所属 / Eligible Faculty	1年(経済), 2年(人文), 2年(理, 工), 2年(発達), 2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	102201	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	高橋 浩二(人文学部3階 考古学研究室)				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	高橋 浩二(月曜日 12:00~12:50)				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
<p>この授業では、「考古学」からみた日本の歴史と社会について学びます。対象とするのは主に文字のない、あるいは普及していない時代です。そのため、扱う資料は、「遺構」や「遺物」が中心となります。遺構とは人類の活動の痕跡、遺物とは人類が製作し使用したものを主に指します。「遺跡」とはこれらを総称したものです。</p> <p>授業では、近年の発掘成果や研究成果などを盛り込みながら、考古学の基本的な考え方と日本の旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代について主に学ぶことを目的にします。</p>					
達成目標 / Course Goals					
<ul style="list-style-type: none"> ・考古学という学問分野の特徴について理解する。 ・日本列島の旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代の特徴について理解する。 					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 考古学とは 2. 考古学の研究法(1) 時期・年代の決め方 3. 考古学の研究法(2) 型式学的研究法 4. 考古学における時代区分 5. 旧石器時代(1) 人類の出現 6. 旧石器時代(2) 日本列島の旧石器時代 7. 縄文時代(1) 縄文時代のはじまり 8. 縄文時代(2) 縄文時代の道具と技術 9. 縄文時代(3) 縄文時代の文化 10. 弥生時代(1) 弥生時代のはじまり 11. 弥生時代(2) 弥生時代の道具と技術 12. 弥生時代(3) 弥生時代の文化 13. 古墳時代(1) 古墳時代のはじまり 14. 古墳時代(2) 古墳時代の道具と技術 15. 古墳時代(3) 古墳時代の文化 					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
<ul style="list-style-type: none"> ・前回授業の内容を確認するとともに、分からなかった用語などを調べた上で出席するようにしてください。 ・授業後には、授業内容の復習をしてください。 					
キーワード / Keywords	考古学、遺跡、遺構、遺物、旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代				
履修上の注意 / Notices	授業中に実施する5~7回程度のテストを怠ると単位の修得は困難となる。				
教科書・参考書等 / Textbooks	授業時に資料を配布する。				
成績評価の方法 / Evaluation	授業中に実施する5~7回程度のテストによって評価する(100%)。				
関連科目 / Related course					
リンク先URL / URL of syllabus or other information					
備考 / Notes					

授業科目名(英文名) / Course title	言語と文化 / Language and Culture				
担当教員(所属) / Instructor	呉人 恵(人文学部)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	地域志向科目	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 後期 火/Tue 1	対象所属 / Eligible Faculty	1年(経済), 2年(人文), 2年(理, 工), 2年(発達), 2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	102203	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	呉人 恵(kurebito@hmt.u-toyama.ac.jp)				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	呉人 恵(月曜日の12:30-13:00ならば、直接、研究室に来ていただいてもかまいません。)				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
<p>「言語類型論的に日本語を見る」</p> <p>世界のさまざまな言語を眺めていると、お互いに違う面がいろいろある。しかし、さらに見てみると、一見、まったく違うような言語でもよく似た面があったり、逆に、よく似ている言語でもまったく違う面があったりする。このような違いや似かよいは、それぞれどのような言語を起源として歴史的に発展してきたのかということと深くかかわっている。しかし、その一方で、起源や歴史的発展にかかわらず、言語には多様な一面と普遍的な一面がある。そこに着目し、世界の言語を整理・分類しようとするのが言語類型論である。</p> <p>この授業では、このような類型論的視点から日本語を観察する。具体的には、日本語や日本語の諸方言の諸現象を英語や時には世界のあまりなじみのない言語などの諸現象と関連づけ、比較することによって、日本語の特質や性格についての相対的な理解を深めることをねらいとする。一般に日本語は特殊な言語である、日本語は変わった言語であるといわれることが多いが、類型論的に見た場合、本当に日本語はそんなに特殊な言語なのかを、特に音声学・音韻論、文法を中心に考えてみる。</p>					
達成目標 / Course Goals					
学生は日本語と他言語を比べることで、より視野の広い、なおかつ、相対的な日本語観を養うことができるようになる。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
(1) イントロダクション: 私たちは日本語をどのように学んできたか。 (2) 世界の言語概観: 分布・系統・類型 (3) 日本語の概観: 共通語、諸方言の分類、琉球語とアイヌ語の位置づけ (4) 音声・音韻現象: 子音と母音の調音的特徴 (5) 音声・音韻現象: 母音と子音の類型と日本語 (6) 音声・音韻現象: アクセントの類型と日本語 (7) 音声・音韻現象: 音節・モーラと日本語 (8) 文法現象: 語形成の類型と日本語 (9) 文法現象: 格組織の類型と日本語 (10) 文法現象: 品詞分類と日本語 (11) 文法現象: 名詞的形容詞・動詞的形容詞と日本語 (12) 文法現象: 名詞修飾節の類型と日本語 (13) 文法現象: アスペクト・時制の類型と日本語 (14) 文法現象: 疑問文の類型と日本語 (15) 世界の言語における日本語の位置づけ					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
【事前学修】 関連のあるテーマについて、できるかぎり文献や配布された資料で予習しておく。 【事後学修】 授業の中で生じた疑問点などはすぐに質問したり、関連文献を調べたりすることで解決しておく。					
キーワード / Keywords	言語類型論, 音声, 音韻, 文法, 語形成, 格組織, 品詞分類, 形容詞, 名詞修飾節, アスペクトと時制				
履修上の注意 / Notices	言語学の予備知識は必要としない。単に受動的に受講するのではなく、疑問点などは積極的に手をあげてその都度、確認するようにしていただきたい。				
教科書・参考書等 / Textbooks	特になし。授業中、適宜プリントを配付する。				
成績評価の方法 / Evaluation	中間試験(30%), 期末試験(50%), 授業態度(20%)				
関連科目 / Related course					

リンク先URL / URL of syllabus or other information	
備考 / Notes	

授業科目名(英文名) / Course title	地球と環境 / The Earth and Its Environment				
担当教員(所属) / Instructor	梶座 圭太郎(人間発達科学部)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	地域志向科目	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 後期 火/Tue 1	対象所属 / Eligible Faculty	1年(経済), 2年(人文), 2年(理, 工), 2年(発達), 2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	102204	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	梶座 圭太郎(梶座圭太郎 kunugiza@edu.u-toyama.ac.jp 445-6300)				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	梶座 圭太郎(内容等については各担当教員が対応します。連絡先等については梶座に問い合わせてください。)				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
地球と環境を、地球史および経済学的視点から考察する。現在の地球は、約46億年間の宇宙空間における冷却がもたらした物質的変化が作り出したものであり、この不可逆性を無視した政治・経済政策や環境政策はありえない。また災害とは、物質的变化による地球表層変動によって人的・経済的損失が発生したもののことであり、都市化により複雑甚大になる。本講義は、将来、政治・経済政策、環境政策および災害政策について学び研究する学生に、全地球史からの視座を提供するものである。					
達成目標 / Course Goals					
現在の地球と環境は、宇宙148億年や地球46億年の進化は、核反応、固体物質化学反応の連鎖によってもたらされたものであることを理解する。 46億年にわたる地球の冷却によるプレートテクトニクスの必然として地球の環境は非定常に大きく変動し、そのため生命の誕生、絶滅と進化が繰り返されてきたことを理解する。一方、光合成生物の活動が酸素地球をつくるなど、地球と生命の共進化を理解する。 500万年前に登場した人類、特に20万年前からのホモサピエンスは、その知力により爆発的に繁殖したが、地球資源を枯渇させ、地球環境を変化させるなど、地球史の重大イベントを作りつつある。一方、自ら作り出した文明は、環境変動に脆弱であり、災害の進化を招いている。広い時空間における地球と環境の変化を認識し、バランスある未来社会を構想し行動していくという自己変容が求められている。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
1 物質的宇宙の誕生と進化 2 超新星爆発と太陽系誕生 3 惑星の冷却とプレートテクトニクス 4 マグマ活動と島弧形成 5 付加体地質学と大陸成長論 6 日本海の誕生と北陸の地質 7 生命の誕生と進化 8 放射線と生命：酸素地球ができるまで 9 気候変動機構と地球温暖化人為説詐欺 10 環境変動がもたらした生命の絶滅進化 11 地震と津波 12 災害と事前復興 13 原発震災と生命環境 14 エネルギー資源論 15 鉱物資源論					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
2回目以降、1週前に授業プリントを配布するので、プリントをあらかじめ読み、疑問に思ったことなどを調べておくこと。					
キーワード / Keywords					
履修上の注意 / Notices					
教科書・参考書等 / Textbooks	プリントを配布する。				
成績評価の方法 / Evaluation	評価は、期末テストによって行う。毎回の出席アンケート記述を考慮することもある。テストは記述式で、概念や考え方を問う小問を多数出題する。各自のノート、配布プリントや参考書の持ち込みは不可。				
関連科目 / Related course					
リンク先URL / URL of syllabus or other information					
備考 / Notes					

授業科目名(英文名) / Course title	社会と情報の数理 / Mathematical Principles in Social Sciences and Intelligence				
担当教員(所属) / Instructor	横山 一憲(経済学部経営学科)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 後期 火/Tue 1	対象所属 / Eligible Faculty	1年(経済), 2年(人文), 2年(理, 工), 2年(発達), 2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	102205	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	横山 一憲(kazu@eco.u-toyama.ac.jp)				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	横山 一憲(火曜日4限)				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
我々の身の近くにある問題を取りあげ、問題に潜んでいる構造を見たり、問題に対する解決方法を考えます。例えば、ある会社がアルバイトを募集していて、職種は数種類あり、応募する人たちはこれらの職種に対して向き不向きがあるとします。これらの職種に応募者を割り当てるためにはどうしたらよいのか?このような問題はマッチング問題といわれ、大規模な問題はコンピュータによって解かれています。本講義では解く考え方を学びます。					
達成目標 / Course Goals					
社会においてある種の問題に直面したときに、「問題の構造はいったいどのようになっているのだろう」と疑問を持ち、本講義の考え方が適用適可能かどうか判断できるようになる。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
1. オリエンテーション 2. マッチング1: 数種類の仕事と何人かの人の仕事の割り当てを考えます。 3. マッチング2 4. マッチング3 5. :あるお菓子メーカーが二つの機械: 製造機械と包装機械、を持っているとします。メーカーは数種類のお菓子を作るのに製造、包装の順番を必ずとります。数種類のお菓子の製造時間、包装時間が違った場合、どのようにしたら早く仕事を終わらせることができるか考えます。 6. 順序付け問題2 7. 順序付け問題3 8. 間違い探し問題1: 何枚かの金貨があります。この金貨の中に偽物がひとつだけ混じっているとします。どのようにして偽物を見つけたらよいのか。このような問題の構造を明らかにしていくことを考えます。 9. 間違い探し問題2 10. 間違い探し問題3 11. 集合場所問題1: 大阪、名古屋と東京に支社を持つ会社がある。毎月1回全体会議を開くのにコストが最も低い開催地はどこだろうか。このような問題の構造を明らかにしていくことを考えます。 12. 集合場所問題2 13. 集合場所問題3 14. 集合場所問題4 15. 集合場所問題5					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
学習配布演習問題の復習。					
キーワード / Keywords	社会、問題、構造				
履修上の注意 / Notices	講義毎に演習問題を解いてもらいます。出席回数が講義回数の2/3未満の場合、期末試験の受験を許可しません。				
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書: 使用しません。 参考書: 経済学で出る数学ワークブックでじっくり攻める、白石俊輔著、日本評論社、2014、1,620円				
成績評価の方法 / Evaluation	講義時配布の演習問題10%、期末試験結果90%				
関連科目 / Related course					
リンク先URL / URL of syllabus or other information					
備考 / Notes					

授業科目名(英文名) / Course title	西洋の歴史と社会 / Western History				
担当教員(所属) / Instructor	大西 吉之(経済学部経済学科)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 後期 火 / Tue 2	対象所属 / Eligible Faculty	1年(理,工), 2年(人文), 2年(理,工), 2年(発達), 2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	102218	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	大西 吉之(研究室(経済学部棟3階))				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	大西 吉之(月曜日13:00-14:00)				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
オランダという外国社会の歴史を学ぶことで、異文化に対する理解を深めること。 客観的、相対的な視点でもって日本社会について考えるきっかけにしてほしい。					
達成目標 / Course Goals					
歴史を通じて、西欧先進国社会(オランダ)の特徴を理解すること。 現代オランダについても一定の理解を得ること。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
第01回 共和国の繁栄 イントロダクション1					
第02回 共和国の繁栄 イントロダクション2					
第03回 共和国の繁栄 寛容とグロティウス					
第04回 共和国の繁栄 チューリップ熱狂					
第05回 共和国の繁栄 絵画市場の発展					
第06回 共和国の繁栄 名誉革命					
第07回 共和国の衰退と社会 18世紀オランダ社会の諸相1					
第08回 共和国の衰退と社会 18世紀オランダ社会の諸相2					
第09回 19世紀の国際秩序 奴隷は解放されたか1					
第10回 19世紀の国際秩序 奴隷は解放されたか2					
第11回 20世紀のオランダ オランダの柱状化1					
第12回 20世紀のオランダ オランダの柱状化2					
第13回 現代オランダの政治風土 新バビロンの建設1					
第14回 現代オランダの政治風土 新バビロンの建設2					
第15回 現代オランダの政治風土 ビム・フォートウインの登場					
具体的なイメージが持てるように、画像や映像を積極的に用います。					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
事前に参考文献を用いて、オランダ史の流れ(特に17世紀から18世紀)について調べて理解すること。事後は配布プリントをもう一度読み、内容を把握すること。					
キーワード / Keywords	西洋史, オランダ				
履修上の注意 / Notices					
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書 ありません。プリントを配布します。 参考書 佐藤弘幸『図説オランダの歴史』河出書房新社, 2012年				
成績評価の方法 / Evaluation	中間試験(50%), 期末試験(50%)				
関連科目 / Related course					
リンク先URL / URL of syllabus or other information					
備考 / Notes					

授業科目名(英文名) / Course title	言語と文化 / Language and Culture				
担当教員(所属) / Instructor	中井 精一(人文学部)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	地域志向科目	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 後期 火/Tue 2	対象所属 / Eligible Faculty	1年(理,工), 2年(人文), 2年(理,工), 2年(発達), 2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	102220	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	中井 精一(E-MAIL:nakai@hmt.u-toyama.ac.jp)				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	中井 精一(前期は、火曜日10:30~12:30 後期は、火曜日14:30~16:00)				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals	日本国内にある地域的特徴に注目し、富山県を中心にした言語と文化の関係について社会言語学的に考える。			
<p>富山県西部では、がんもどきのことをマルヤマやマルアゲ、ガンモドーフと呼ぶが、富山県東部ではガンモと呼ぶことが多い。また石川県金沢周辺ではヒリョウズやヒロウスと呼び、小松に近づくにつれてマイデラと呼ぶ地域が増える。</p> <p>富山県や石川県などの北陸地方で、ところてんは、食事の副食として添えられているが、関西では黒蜜をかけておやつとして出され、酢醤油で食べることは少ない。また、富山県で販売されているカマボコの多くは、板のない渦巻きカマボコであるが、関西で見かけることはほとんどない。</p> <p>正月の雑煮に注目すれば、富山県東部ではフクラギやサバなどを使用するが、富山市などの県中央部ではエビやすり身に代わる。砺波や高岡などの呉西では鶏肉を使用するが、小矢部以西では餅と薬味以外の具材はほとんど入らない。同じ名称であっても内容が同じとは限らず、個別地域の特性がその内容を左右している。</p> <p>物が同じで名前の違うものとしては、中華まんじゅうを関西では豚まんというが、富山では東京と同じく肉まんの例を挙げることができよう。諸外国から見ると我が国はまことに狭い国土ながら、地方ごとにさまざまな習慣や方言がある。</p> <p>講義では、日本国内にある地域的特徴に注目し、富山県を中心にした言語と文化の関係について社会言語学的に考えてみたいと思う。</p>					
達成目標 / Course Goals	ことばに内在する思想や文化的背景を認識し、日本文化の奥行きと広がりについて深く理解する。				
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule	<p>授業は、配布資料とパワーポイントをつかってすすめる。 スケジュールは、以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 世界のなかの日本語 2 日本の方言の特徴 3 日本の方言の特徴2 4 西日本のなかの北陸地方 5 北陸地方の歴史とことば 6 北陸地方の自然環境とことば 7 北陸地方の文化や意識とことば 8 富山県の方言について 9 富山県の方言について 10 富山県の伝統とことば 11 富山県の食文化とことば 12 富山県の食文化とことば 13 富山県の多言語表示と言語景観 14 富山県方言の動態 15 まとめ 				
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class	<p>授業の前には、テキストやノートを用い、前回授業の予習をして臨んで欲しい。また、授業後は、テキストや配布資料をもとに授業のポイントを確認・理解して、到達目標に近づけるよう努めていただきたい。</p>				
キーワード / Keywords	社会言語学 北陸方言 富山県方言 日本の地域特性 フィールドワーク				
履修上の注意 / Notices	授業では、地元出身の学生には自身のことばを内省する機会になり、他府県出身の学生には、ここ富山を知る機会になるように授業を構成する予定なので、多くの学生の積極的な授業参加と活発な意見交換を期待している				
教科書・参考書等 / Textbooks	参考書 『日本の方言地図』徳川宗賢編 中公新書				

成績評価の方法 / Evaluation	中間レポート (30%) , 期末レポート (50%) , 授業態度 (20%)
関連科目 / Related course	
リンク先URL / URL of syllabus or other information	
備考 / Notes	

授業科目名(英文名) / Course title	市民生活と法 / Law and Society				
担当教員(所属) / Instructor	雨宮 洋美(経済学部経営法学科)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 後期 火/Tue 2	対象所属 / Eligible Faculty	1年(理,工), 2年(人文), 2年(理,工), 2年(発達), 2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	102223	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	雨宮 洋美(hiromiam@eco.u-toyama.ac.jp)				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	雨宮 洋美(授業後。授業後以外に面談を申し出る場合は、必ず事前にメールでアポを取る。)				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
<p>私たちは、気づかないうちに法と関わりながら日常生活を営んでいます。</p> <p>私たちが生まれ、日常生活を営み、成長して結婚したり子供を持つという身近な場において、常に基本的なルールを提示する法律が民法です。つまり民法は、生まれてから死ぬまで関係しない日というのはほとんどない、というほど私たちと密接に関わる法律といえます。そこで、本授業では日常生活に身近であり、生涯にわたりもっとも頻繁に接することとなる民法およびその特別法のルールを中心として学習していきます。</p> <p>また、最後には習った知識の総括をし日本法規定の特徴を捉え理解を深めるため、他国における法制度との比較をした上、特に途上国における法と開発の問題についても考察することを予定しています。</p> <p>従って、本授業は学生生活・社会生活において不可欠といえる法律の基礎的な知識を身につけるとともに、日本民法の知識をベースとし広い視野で国際的な法をとりまく問題をも理解する場としての役割を担っているといえるでしょう。法律という基本的な制度の理解とともに、広い視野で制度の役割を考えられるようになることが期待されます。</p>					
達成目標 / Course Goals					
<p>前半では具体的な事例を通じ、日常的な事象を民法の視点を通じてみるとどのように把握できるのか、そしてどのような解決がはかれるのかを考えていきます。</p> <p>日常の事例と法とのかかわりを知った上で法の役割を学ぶことが目的といえるでしょう。</p> <p>日常生活において毎日起こりうるさまざまな法律行為についての基礎的な法律知識を習得できるほか、自分で解決方法を考えられるようになることが達成目標です。</p> <p>また、日本民法の特徴の理解を深めるため、国際的には法と開発の問題としてどのようなことが起こっているのかについても学び、法の問題は国内的にのみならず国際関係の中でも重要であることを理解しましょう。</p>					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
講義は全体的に以下の3パートに分けて行う予定です(進度により調整可能性あり)。					
<p>パート1. 導入</p> <p>導入として法とは何か、民法が扱う領域・民法の世界を、歴史的な経緯や民法の構造から概観します。</p> <p>なぜ民法を学ぶのか、ということを理解します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 公法と私法 3. 社会のルールと法 4. 民法の世界、民法の歴史 					
<p>パート2. 日常的な事例を考えよう</p> <p>パート2. では、パート1. 部分の講義内容による知識を前提とし日常生活における種々の法律行為、生活と法との関わりについて学び、その上で市民生活における取引法上の諸問題について学びます。</p> <p>具体的には契約、日常生活で起こりうる様々な事故に対応する不法行為、および家族関係における法律問題を中心として学習します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 家族法の基礎1. 6. 家族法の基礎2. 7. 日常生活と契約 8. 消費者契約の問題 9. 不法行為1. (日常生活のあらゆる事故: 自動車事故、公害、製造物責任等) 10. 不法行為2 11. 不法行為3 					
<p>パート3. 国際開発の中における日本法</p> <p>最終回には広い視野で日本の民法の特徴を理解するため、開発と法・国際協力と法の講義を行います。パート 1.2 で身につけた知識をもとに、他国の状況を見て比較してみましょう。</p> <p>特に途上国における開発と法の問題、日本がODAの一環として積極的に支援に携わっている法整備支援に光を当てて今世界で起こっている法と開発の問題について考えましょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 12. 法と開発: 国際協力と法、法整備支援 					

授業時間外学修（事前・事後学修） / Independent Study Outside of Class	
テレビのニュースや新聞等を目にするとき、講義で習った民法の視点でみてみましょう。私たちが生きている社会がいかに法制度により統治されているか（いないのか）理解が深まるはずです。	
キーワード / Keywords	民法、契約
履修上の注意 / Notices	他の学生の集中を妨げる私語や言動、講義途中での無用な出入りは禁止します。
教科書・参考書等 / Textbooks	【六法】最新版 コンパクトサイズのもの、どの出版社のものでも結構です。古い六法では対応できません。必ず最新版を購入してください。 また『六法』は毎回必ず持ってくること。 【参考図書】『法律学小辞典』（有斐閣）または『法律用語辞典』（有斐閣）を参考図書として活用することをすすめます。わからない法律用語等を調べ言葉に慣れてください。
成績評価の方法 / Evaluation	小テスト・中間テスト2-4割、最終試験6-8割の予定ですが、変更可能性があります。授業態度を加味する場合があります。
関連科目 / Related course	
リンク先URL / URL of syllabus or other information	
備考 / Notes	

授業科目名(英文名) / Course title	産業と経済を学ぶ / Industry and Economy				
担当教員(所属) / Instructor	王 大鵬(経済学部経済学科)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 後期 火/Tue 2	対象所属 / Eligible Faculty	1年(理,工), 2年(人文), 2年(理,工), 2年(発達), 2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	102224	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	王 大鵬((五福キャパス経済学部棟401研究室) Tel:076-445-6445 e-mail:oh-th@eco.u-toyama.ac.jp)				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	王 大鵬((メール、電話等で事前に連絡してください。))				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
本授業の前半では様々な国際経済取引(国際貿易、投資等)の原因・仕組み・ルール及びその諸効果に関する基礎知識を解説し、第2次世界大戦終戦から今日に至るまでの世界経済の変遷を概観する。後半では世界経済の中で存在感が高まりつつあるアジア経済に焦点を当て、アジア諸国の経済発展と日本経済との関係について検討する。					
達成目標 / Course Goals					
世界経済における日本の位置づけについて考え、グローバルな視点で日常の経済現象をみることができるようになる。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 世界経済を見る目 2. 外国為替市場と為替レート 3. 外国為替市場と為替レート 3. 国際貿易の基本構造 4. 国際貿易の基本構造 5. 海外直接投資と企業のグローバル展開 6. 海外直接投資と企業のグローバル展開 7. 国際通商システム 8. 地域経済連携・経済統合 9. 地域経済連携・経済統合 10. 現代アジアを見る目 11. 工業化の連鎖・波及と経済成長 12. 東アジア域内の国際分業構造 13. 東アジアの経済統合 14. 日本とアジア諸国との経済関係 15. まとめ 					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
配布資料の内容や専門用語について調べて理解すること。					
キーワード / Keywords	国際貿易、直接投資、国際通商システム、地域経済連携・経済統合、アジア経済				
履修上の注意 / Notices					
教科書・参考書等 / Textbooks	参考書： 伊藤元重『ゼミナール国際経済入門』改定3版日本経済新聞社2005年 大野健一・桜井宏二郎『アジアの開発経済学』有斐閣 1999年				
成績評価の方法 / Evaluation	受講態度、小テスト等の平常点と期末レポートの成績を基礎に総合的に評価する。平常点評価50%、期末レポート50%				
関連科目 / Related course					
リンク先URL / URL of syllabus or other information					
備考 / Notes					

授業科目名(英文名) / Course title	経営資源のとらえ方 / Management Resources				
担当教員(所属) / Instructor	廣橋 祥(経済学部経営学科)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 後期 火/Tue 2	対象所属 / Eligible Faculty	1年(理,工), 2年(人文), 2年(理,工), 2年(発達), 2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	102225	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	廣橋 祥(経済学部棟6階617研究室, shohiro@eco.u-toyama.ac.jp)				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	廣橋 祥(前期:木曜16:00~17:00, 後期:火曜15:00~16:00)				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日 2017/08/09				
本日(2017年8月9日), 内容を一部修正しました。					
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
本授業では, 教養としての複式簿記を学習する。具体的には, 個人企業の商業簿記を学習し, 基本的な財務諸表の作成ができるようになることを通して, 企業の「経営資源のとらえ方」の一端を習得する。このようにして複式簿記の知識や考え方を身につけることにより, 企業を取り巻く諸問題に対してより広い視野で, あらゆる視点や視座から考察できるようになることを目標とする。					
達成目標 / Course Goals					
1) 複式簿記の意義と基本的な仕組みを理解できる。 2) 特に商業を営む個人企業における基本的な財務諸表を作成できる。 3) 複式簿記の知識や考え方を生かし, 企業を取り巻く諸問題に対して考察できる。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
第1回「複式簿記の基礎知識」では, 複式簿記の基礎知識を確認するとともに, 全体像を把握する。次に, 第2回「現金・預金」から第12回「収益と費用」では, 商業を営む個人企業の期中取引の処理に加え, 各取引の決算整理手続きを理解する。さらに, 第13回「決算(1) - 財務諸表の作成 - 」および第14回「決算(2) - 精算表の作成 - 」では, それまでに学習した内容を踏まえ, 前者では特に損益計算書と貸借対照表という2つの財務諸表を作成し, 後者では特に精算表を作成することを通して, 決算の手続きを理解する。そして最後に, 第15回「まとめ」では, 企業を取り巻く現代的な諸問題を取り上げ, 複式簿記の知識や考え方を生かして考察する。					
第01回 複式簿記の基礎知識 第02回 現金・預金 第03回 商品売買 第04回 売掛金・買掛金 第05回 その他債権・債務 第06回 手形 第07回 有価証券 第08回 固定資産 第09回 資本金 第10回 税金 第11回 伝票 第12回 収益と費用 第13回 決算(1) - 財務諸表の作成 - 第14回 決算(2) - 精算表の作成 - 第15回 まとめ (注)期末試験は別途実施する。					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
1) 事前学修 次回の授業で扱われる予定の内容について, ワークブック(下記「教科書・参考書等」欄を参照)の「学習のポイント」を読むこと。 2) 事後学修 前回までの授業で扱われた内容について, ワークブックの問題を解くこと。					
キーワード / Keywords					
履修上の注意 / Notices 授業には, 電卓を持参すること。なお, 電卓は期末試験および小テストにおいても使用可とする。					
教科書・参考書等 / Textbooks 1) 教科書 鈴木基史・森口毅彦(編著)『入門現代簿記ワークブック』中央経済社(2013年, 2,400円+税) 2) 参考書 鈴木基史・森口毅彦『入門現代簿記』中央経済社(2012年, 2,600円+税)					

成績評価の方法 / Evaluation	1) 期末試験 (80%) 全15回の授業終了後に1回実施する。 2) 小テスト (20%) 授業時間内に複数回実施する。
関連科目 / Related course	
リンク先URL / URL of syllabus or other information	
備考 / Notes	

授業科目名(英文名) / Course title	人間と倫理 / Ethics				
担当教員(所属) / Instructor	澤田 哲生(人文学部)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 後期 火/Tue 5	対象所属 / Eligible Faculty	1年(理,工), 1年(発達), 1年(経済), 2年(人文), 2年(理,工), 2年(発達), 2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	102261	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	澤田 哲生(tsawada@hmt.u-toyama.ac.jp)				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	澤田 哲生(火曜日と金曜日の12:00-13:00。事前にメールで連絡してください。)				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
この授業では、ヨーロッパの哲学、倫理学、精神科学(精神病理学、精神分析、児童心理学)の成果をもとに、人間と倫理について考えます。人間と倫理という用語には、よく考えてみるとわからない部分がたくさんあります。人間である私たちが人間という生き物について考えることにどのような意味があるのか、その倫理的な基準はどこにあるのか こうした初歩的でもあれば、極めて重要な問題を、授業では上記のさまざまな学問の成果を用いて、みなさんとゆっくり考えてゆきたいと思います。					
達成目標 / Course Goals					
達成目標は、次の二点です。1. 自分や他人という人間について深く考える能力の養成。2. 物事や出来事を、倫理的な視点から読み解く方法の習得。3. 経験の拡張。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
第一回: ガイダンス・イントロダクション 第二回: 人間って何者? 第三回: 倫理って何? 第四回: 心について考えてみよう(1) 第五回: 心について考えてみよう(2) 第六回: 身体について考えてみよう(1) 第七回: 身体について考えてみよう(2) 第八回: 善悪について考えてみよう(1) 第九回: 善悪について考えてみよう(2) 第十回: 対人関係について考えてみよう(1) 第十一回: 対人関係について考えてみよう(2) 第十二回: 健常と非健常の違いについて考えよう(1) 第十三回: 健常と非健常の違いについて考えてみよう(2) 第十四回: 大人と子どもの違いについて考えてみよう 第十五回: まとめと課題作成					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
予習として、授業内で扱う思想家とその思想について調べておくこと。復習として、授業で扱った思想家の著作を読んでおくこと。					
キーワード / Keywords	人間、倫理、哲学、心、身体、善悪、対人関係、健常と非健常、大人と子ども				
履修上の注意 / Notices	毎年大人数の学生が受講する授業です。多少の私語でも教室ではかなり目立ちます。さらに私語に対する注意により授業の進行が止まると、教員、注意を受ける学生、関係のない学生のだれもが利益にあずからない、深刻な事態が教室内で発生します。したがって、私語により注意を受けた場合は、その場で受講資格を失います。反対に、授業内容にかかわる質問は、授業中も事後も歓迎します。				
教科書・参考書等 / Textbooks	授業のなかで資料を配布します。				
成績評価の方法 / Evaluation	毎回のコメントペーパー提出(40%)、最終回の課題作成(60%)の成績から総合的に判断します。				
関連科目 / Related course	「哲学のすすめ」				
リンク先URL / URL of syllabus or other information					
備考 / Notes					

授業科目名(英文名) / Course title	現代と教育 / Present Day and Education		
担当教員(所属) / Instructor	藤田 公仁子(地域連携推進機構)		
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目		
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 後期 火/Tue 5	対象所属 / Eligible Faculty	1年(理,工), 1年(経済), 2年(人文), 2年(理,工), 2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工)
時間割コード / Registration Code	102263	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年 単位数 / Credits 2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	藤田 公仁子(共通教育棟B棟 建物の入口に「地域連携推進機構生涯学習部門」の看板があります。2階 209研究室です。E-mail: kunikof@ctg.u-toyama.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	藤田 公仁子(水曜日 14:30 ~ 16:00 メールで事前に連絡してから訪問すること)		
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日		
現代の社会状況の中で、「学ぶ機会」がどこにあるのか? 「学ぶ」とはどういうことなのか? 「豊かに生きる」ということはどういうことなのか? を追求する姿勢で毎回の授業に臨んでください。 日頃から、新聞、ニュース、メディア情報等で現代社会の動向に関心をもってください。			
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals		
現代社会では、労働・生産・生活を営む中で、日々多様な学習活動を展開している。とりわけ日常生活の中では、多種多様な生活課題・地域課題にとりくむ学習活動が必要とされている。一生涯にわたる学習活動の現状、実践的広がりについて情報を提供をする。受講者が自らの視点で、生涯学習プログラムを獲得できることをめざす。			
達成目標 / Course Goals			
生涯学習時代へ受講者自身の自らの体験による「自己教育」の実践とそれを規定する条件について理解し、新たな生涯にわたる「学習」へのプログラムをデザインし、社会的な視野で実践する力を育むことを目標としている。			
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule			
第1回 オリエンテーション 第2回 「学びを再獲得する」するという意義 第3回 生涯学習としてのキャリア教育 第4回 ボランティア、NPO活動 第5回 社会教育施設で展開される学習活動 第6回 生活文化の中での生涯学習 第7回 食と教育 第9回 現代社会における社会的排除 第10回 高齢化社会における学びの支援 第11回 地域課題解決型学習の仕組み 第12回 ワークライフバランスを考える 第13回 大学開放と生涯学習 第14回 現代社会における生涯学習の広がりについて 第15回 総括及び補足			
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class			
現代の社会状況、特に時事に対するアンテナが大切である。授業でとりあげた事項等の中で、現代社会の動向を捉え、自ら日常生活を振り返り、「現代社会の中で生活する」「日々の生活を豊かに生きる」ということについて考察を深めることに期待する。			
キーワード / Keywords	社会教育、生涯学習、キャリア教育、大学開放、生活文化、食育、災害支援、NPO、ボランティア、格差社会、子どもの貧困、高齢者教育		
履修上の注意 / Notices	日常生活の中で、疑問・課題を見つけ、自ら学びたいことを醸成させる姿勢をもつことが前提である。基本的に講義形式で進めていくが、参加型学習も可能な限り導入する。授業中にディスカッションを行うこともあるので、自分の考えを積極的に述べる。授業中に意見を求めることもある。		
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書は指定しません。参考文献は授業中に紹介する。		
成績評価の方法 / Evaluation	授業中に何回かの小レポート提出(30%)と学期末レポート提出(50%)授業への参加態度(ディスカッションへの参加姿勢等20%)で総合評価をする。 レポートの評価は、設定した課題における社会背景及び現代的課題を踏まえて、自分はどうのように考えるかを述べるができる。		
関連科目 / Related course			

リンク先URL / URL of syllabus or other information	
備考 / Notes	

授業科目名(英文名) / Course title	東洋の歴史と社会 / Asian History				
担当教員(所属) / Instructor	澤田 稔(人文学部)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 後期 火/Tue 5	対象所属 / Eligible Faculty	1年(理,工), 1年(発達), 1年(経済), 2年(人文), 2年(理,工), 2年(発達), 2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	102264	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	澤田 稔(sawada@hmt.u-toyama.ac.jp)				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	澤田 稔(木曜日12:30~13:00、メールで事前連絡してから訪問すること)				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
世界史上もっとも重要な宗教の一つであるイスラームを取り上げ、アラビア半島におけるその創始から西アジア・北アフリカにおける古典的イスラーム世界の形成にいたる歴史を考察する。宗教としてのみならず、社会、経済、政治などの視点から諸地域の文化を越えたイスラーム文明の共通の側面を重視して講義を進める。					
達成目標 / Course Goals					
現代世界を理解する上で重要なイスラームについて歴史的な基礎知識を習得すること。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
<ol style="list-style-type: none"> 1. イスラーム世界概観 2. イスラームの教義 (1) 六信 3. イスラームの教義 (2) 五行 4. イスラーム以前のアラビア半島 5. ムハンマドの生涯とイスラームの創始 6-7. 正統カリフ時代 8. 中間まとめ 9. ウマイヤ朝の成立とシーア派の形成 10. ウマイヤ朝の征服活動と統治体制 11. アッバース朝の成立 12. アッバース朝の統治体制 13. アッバース朝の衰退 14. アッバース朝時代の地方政権 15. 期末まとめ 					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
事前学修として、高校世界史におけるイスラームに関する基礎事項を確認しておくこと。事後学修として、当該授業で言及された史実について参考書等により理解を深めること。					
キーワード / Keywords	イスラーム、ムスリム				
履修上の注意 / Notices	教科書は使用しないので、受講者は毎回出席すること。				
教科書・参考書等 / Textbooks	中村廣治郎『イスラーム教入門』(岩波新書、1998年) 佐藤次高・鈴木薫(編)『都市の文明イスラーム』(講談社現代新書、1993年)				
成績評価の方法 / Evaluation	中間試験(50%)、期末試験(50%)				
関連科目 / Related course					
リンク先URL / URL of syllabus or other information					
備考 / Notes					

授業科目名(英文名) / Course title	現代社会論 / Contemporary Society				
担当教員(所属) / Instructor	伊藤 智樹(人文学部)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	地域志向科目	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 後期 火/Tue 5	対象所属 / Eligible Faculty	1年(人文), 1年(理,工), 1年(発達), 2年(人文), 2年(理,工), 2年(発達), 2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	102266	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	伊藤 智樹(tomoki@hmt.u-toyama.ac.jp)				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	伊藤 智樹(前期:火曜昼休み~3限、水曜2限 後期:火曜昼休み~4限、木曜昼休み~3限 *ただし、急な会議等で一時的に部屋を空けることはあります。)				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
<p>本講義は、病いの経験をテーマとする。近代医学や心理学が発達した私たちの社会においては、それらによって病いは「治される」ものだとイメージしやすい。しかし、果たしてすべてそのように言えるのだろうか。本講義では、さまざまな病いを取り上げながら、文字通り「治る」ことが期待できないなかで、人々が「物語」をもって生きる経験として病いを読み解いていく。また、その中で、仲間同士の支え合い(ピア・サポート)の重要性を理解していくことになる。</p>					
達成目標 / Course Goals					
<ul style="list-style-type: none"> ・近代社会を医学の発展という側面から理解すると同時に、そこから生じるさまざまな問題についても理解を深める。 ・セルフヘルプ・グループ、ピアサポートの社会的意義を理解する。 					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
(1) ガイダンス (2) 近代社会と医療 (3) 現代社会における病の問題:「病の語り」研究へ (4) 現代社会における病いとピア・サポート (5) アルコリズムとセルフヘルプ・グループ (6) アルコホールクの自己物語 (7) 死別体験とセルフヘルプ・グループ (8) 死別体験の自己物語 (9) 吃音(きつおん=どもること)とセルフヘルプ・グループ (10) 吃音の自己物語 (11) パーキンソン病とセルフヘルプ・グループ (12) パーキンソン病の自己物語 (13) ALSとセルフヘルプ・グループ (14) ALSの自己物語 (15) まとめ					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
事前にテキストはじめに~第1章を読むこと。事後学習としては授業時の配布資料を読み返すこと。					
キーワード / Keywords					
履修上の注意 / Notices					
教科書・参考書等 / Textbooks	伊藤智樹編著『ピア・サポートの社会学 ALS、認知症介護、依存性、自死遺児、犯罪被害者の物語を聴く』晃洋書房				
成績評価の方法 / Evaluation	出席状況、レポートによる。				
関連科目 / Related course					
リンク先URL / URL of syllabus or other information					
備考 / Notes					

授業科目名(英文名) / Course title	経済生活と法 / Law and Economy				
担当教員(所属) / Instructor	中出 孝典(経済学部経営法学科)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 後期 火/Tue 5	対象所属 / Eligible Faculty	1年(人文), 1年(理,工), 1年(発達), 2年(人文), 2年(理,工), 2年(発達), 2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	102269	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	中出 孝典(経済学部研究棟602号室 nakade@eco.u-toyama.ac.jp)				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	中出 孝典(月曜日4限)				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
<p>例えば、ハイブリッドカーや薄型テレビの開発や販売について企業は激しい競争をしています。一方、企業が独禁法違反の疑いがあるとして公正取引委員会の立入検査を受けた、あるいは公正取引委員会が独禁法に違反した企業に命令を出したという新聞記事を目にすることもあてでしょう。</p> <p>いったい、どのような企業の活動が独禁法違反になるのでしょうか。実際の事件を通じて独禁法の基礎を説明します。</p> <p>独禁法の執行が飛躍的に強化されており、独禁法について一定の理解をすることは、将来、企業や官公庁で仕事をする上で役立つでしょうし、市民としても必要です。</p>					
達成目標 / Course Goals					
<ol style="list-style-type: none"> 1 独禁法の仕組みや典型的な違反行為の内容を理解する。 2 競争政策の意義を理解する。 3 独禁法に関する新聞記事を理解できるようになる。 					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
<ol style="list-style-type: none"> 1 競争政策とは何か 2 私的独占 3 価格カルテル 4 入札談合 5 課徴金 6 不公正取引総論 7 不公正取引 不当廉売 8 不公正取引 専売店制 9 不公正取引 再販売価格の拘束 10 不公正取引 拘束条件付き取引 11 不公正取引 優越的地位の濫用 12 不公正取引 並行輸入の妨害 13 景品表示法 14 企業結合 15 独禁法の執行 					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
講義資料を復習すること					
キーワード / Keywords	独禁法, 公正取引委員会, 競争政策				
履修上の注意 / Notices					
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書は使用しない。毎回, 講義資料を配布する。				
成績評価の方法 / Evaluation	期末試験のみ				
関連科目 / Related course					
リンク先URL / URL of syllabus or other information					
備考 / Notes					

授業科目名(英文名) / Course title	地域の経済と社会・文化 / Local Economy, Community and Culture				
担当教員(所属) / Instructor	山根 拓(人間発達科学部)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	地域志向科目	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 後期 火/Tue 5	対象所属 / Eligible Faculty	1年(人文), 1年(理,工), 1年(発達), 2年(人文), 2年(理,工), 2年(発達), 2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	102270	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact					
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours					
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals	地域(経済・社会・文化)の成り立ちを知り、その診断評価の視点を身につけさせること。			
サブタイトル: 地域を知ろう 地域とは何かという問いを追究する学問分野として、「地域研究」がある。地域は様々な顔を持つが、ふだん私たちが理解しているのはその一部に過ぎない。そこで、この授業では、私たちが知らない、気付かない様々な地域の姿を、様々なアプローチの仕方でも明らかにしたいと思う。特に私たちが日常的に学び暮らす地域である富山に注目して、その地域的な特徴を主に地理学的な視点・手法を用いて明らかにしたい。					
達成目標 / Course Goals					
地域を理解するために、何をすればよいか、どのような材料を得ることができるかを知ることができる。どのようなアプローチ・分析手段を用いれば、地域のいかなる特性が明らかになるのかを、知ることができる。初歩的な地域分析の方法を駆使できるようになる。地図情報を十分に解釈して、そこから正確な空間のイメージを描くことができる。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
第1回 はじめに(授業の目的と方法等の説明) 第2回 地域とは何か(1) 第3回 地域とは何か(2) 第4回 地図からみた地域形成過程と地域空間の現状(地形図等から地域を読む)(1) 第5回 地図からみた地域形成過程と地域空間の現状(地形図等から地域を読む)(2) 第6回 地図からみた地域形成過程と地域空間の現状(地形図等から地域を読む)(3) 第7回 地域空間の範囲(地域勢力圏の画定方法) 第8回 地域の内部構造(地域分化の特徴とその発生メカニズム) 第9回 機能的空間分化(CBD, 中心商業・工業・混在・住宅・文教・港湾・郊外中心地区等)と地域間関係・地域問題 第10回 地域の歴史・文化・景観(境界地域・富山県の文化特性) 第11回 地域を支える産業の現在(伝統産業と新興産業) 第12回 地域を比較する視点 富山と金沢 第13回 都市システム論 日本の中の諸都市と富山 第14回 地域を変える・地域を創る 地域問題・都市計画・街づくり・コンパクトシティ 第15回 地域の持続的発展 sustainable development 定期試験(レポート提出に変更の場合あり)					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
事前学修としては、前回授業の最後に次回授業の課題を示すので、それについて参考書や参考資料等に目を通しておくこと。 事後学修としては、授業時に指示した当該回の重要ポイントについて復習しておくこと。					
キーワード / Keywords	地域, 場所, 景観, 地図, 都市, 地理学, 持続的発展				
履修上の注意 / Notices	授業内容をよく復習しておいてほしい。地理学的に地域をみる上で重要な考え方や場所等を授業で紹介するが、暇なときに実地に観察し、文献などを渉猟して、理解を深めておいてもらいたい。出欠は毎回確認しないが、不定期に確認する予定なので、留意されたい。また、授業中に勝手に部屋を退出する者は、例外なく成績評価の対象から外すので、これも留意されたい。				

教科書・参考書等 / Textbooks	<p>教科書は特に指定しない。参考書・参考文献についてはその都度示すが、以下の参考書・文献は用いる予定である。</p> <p>中西・関戸編（2008）『近代日本の視覚的経験 絵地図と古写真の世界』ナカニシヤ出版（定価2,600円＋税）</p> <p>藤田・田林編（2007）『日本の地誌7 中部圏』朝倉書店（定価26,000円＋税）</p> <p>前者は、近代の地域を知る上での図像資料の価値やその視線について論じた先端的な研究書である。後者は詳細な現代地誌書であるがかなり高価な書であり、図書館などで参照いただきたい。</p>
成績評価の方法 / Evaluation	定期試験（レポート提出に変更の場合あり）70％，地域観察・主題図作成などの課題作業の評価30％として総合評価。
関連科目 / Related course	具体的には指定しないが、地理学・地域経済学・都市社会学・統計学などの分野の科目を履修しておくことが望ましい。
リンク先URL / URL of syllabus or other information	
備考 / Notes	

授業科目名(英文名) / Course title	物理の世界 / Physical Science		
担当教員(所属) / Instructor	桑井 智彦(理学部物理学科)		
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目		
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 後期 火/Tue 5	対象所属 / Eligible Faculty	1年(人文), 1年(発達), 1年(経済)
時間割コード / Registration Code	102271	対象学年 / Eligible grade	1年 単位数 / Credits 2.0
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	桑井 智彦(理学部A 1 2 2 /kuwai_at_sci.u-toyama.ac.jp (_at_は@に置き換え))		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	桑井 智彦(金曜日5限以降)		
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日		
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals		
<p>我々を取り巻く環境には、物理学の発展の恩恵を受けたものが極めて多いことは少なくとも漠然としてでも多くの人が感じる場所であることと思う。たとえば、便利な家電製品などはまさしく物理学を礎として私たちの生活を豊かにしている。実際にそれらがどのような原理で動くのかについては、知っていなくても生活するには特に不自由は感じないことが多いが、知っていればもっとそれらを十分使いこなすことができることも多い。本講義では、「物理」に対して様々な意味で「苦手意識のある人」を対象として、物理学の柱である力学、熱力学、電磁気学の初歩をおもに「物質」を通して平易に解説する。「身の回りにおける物理」に焦点を絞ってそれらの基礎原理を紹介していく。具体的には「カーブの標識の“R”とは何か」、「台風の渦」、「地震と波」、「物質の温度を下げる」と、「静電気と雷の物理」、「IHヒータの原理とエネルギーの移送」などを通して、物理への苦手意識を解消し、身の回りの諸現象を物理学的におおまかに考えることができるようになることを狙いとする。</p>			
達成目標 / Course Goals			
<p>身の回りの諸現象を物理を使って理解しようとする意欲が身に付くこと。 身の回りの様々な物質についての基礎的な物理を理解すること。</p>			
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule			
<p>以下のようなテーマに従って講義を進めていく予定である。 各テーマは1話完結の予定であるが、進行度によっては2コマにわたる場合もある。 テーマによってはデモンストレーション実験を通して物理を体感してもらうものもある。</p>			
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 力と運動, エネルギー: 地球上と月の上での体重 3. 見かけの力: 重力とエレベータ, カーブの標識の“300R”とは? 4. 台風の渦の物理 5. 地震と波 6. 物質の温度を下げる... その1 7. 物質の温度を下げる... その2 8. 静電気のコントロール 9. 磁力の不思議その1... 永久磁石 10. 磁力の不思議その2... 電磁石 11. 雷の物理 12. 家電製品の物理その1 13. 家電製品の物理その2 14. エネルギーの変換 15. 身の回りの物理: ディスカッション 			
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class			
<p>各回の授業の終盤に次回の授業内容の予告をするので、参考書やインターネット等を利用して事前学修した内容をノートにまとめておくこと。また、各回の授業内容にかんする感想や疑問点などもノートにまとめ、授業中や授業後に質問する際の資料等に活用する。</p>			
キーワード / Keywords	物理, 力学, 熱力学, 電磁気学, エネルギー		
履修上の注意 / Notices			
教科書・参考書等 / Textbooks	<p>教科書は指定しない。参考書として以下をあげる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 近角 聡信 「日常の物理事典」東京堂出版 2. 近角 聡信 「続日常の物理事典」東京堂出版 3. 大塚 徳勝 「そこが知りたい物理学」講談社 4. 志村 史夫 「ゼロからわかる物理」丸善 5. 小暮 陽三 「ゼロから学ぶ 物理のことば」講談社 		

成績評価の方法 / Evaluation	2, 3のテーマを終えるごとにそれらに関連した簡単なレポート問題を課す。そのレポートの提出状況と内容によって総合的に成績評価を行う。
関連科目 / Related course	
リンク先URL / URL of syllabus or other information	http://www3.u-toyama.ac.jp/sphy020a/
備考 / Notes	

授業科目名(英文名) / Course title	材料の科学 / Materials Science				
担当教員(所属) / Instructor	阿部 孝之(水素同位体科学研究センター), 佐伯 淳(工学部材料機能工学科)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 後期 火/Tue 5	対象所属 / Eligible Faculty	1年(人文), 1年(発達), 1年(経済), 2年(人文), 2年(理,工), 2年(発達), 2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	102273	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact					
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours					
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
<p>(阿部) サブタイトル: 電池の科学 電池は現代社会の中で非常に重要な役割を担っている。例えば、携帯電話のリチウム二次電池やハイブリッド車のニッケル 水素二次電池はその需要を飛躍的に拡大している。また、環境問題と相まって、燃料電池の開発が全世界的な規模で活発に行われている。さらに、太陽電池は二酸化炭素低減の一役を担うまでに成長してきている。本講義ではこれら電池の歴史的背景や原理・構造・特徴についてわかりやすく講義いたします。</p> <p>(佐伯1) サブタイトル: "金属の科学" 富山はアルミニウムやマグネシウム、銅といった非鉄金属の産業が盛んな素材産業立県です。そうした金属は硬貨や携帯用電子機器から、自動車、建材にいたるまであらゆる分野に利用され、私達の生活に欠かすことのできない重要な生活基盤材料となっています。この講義では、それら金属がなぜ多く利用されているのかを、その特性・特徴などから概説すると共に、金属元素が私達の身体に及ぼす影響や効果についてやさしく説明します。</p> <p>(佐伯2) サブタイトル: "セラミックスの科学" セラミックスは人為的な処理によって製造された非金属・無機・固体材料を一般的にさす言葉です。古くは陶磁器、ガラス、セメント、耐火物等が代表的なものでしたが、今では精密で高度化した機械材料や電子材料に至るまで非常に幅広い分野で使われています。これらセラミックスの機能と多様性について紹介します。</p>					
達成目標 / Course Goals					
<p>(阿部) 我々の身近で日常的に使用している電池の原理・構造・特徴を理解すること。</p> <p>(佐伯1) 1) 金属の特性・特徴に関する知識を得ること。 2) 金属が人体に及ぼす影響や効果を知ること。</p> <p>(佐伯2) 1) セラミックスの製造法について理解すること。 2) セラミックスの構造、性質に関する知識が備わること。 3) セラミックスの機能発現に関する知識が備わること。</p>					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					

各担当教員が以下の講義をビデオなども併用して行います。

(阿部)

- 1) リチウム二次電池
- 2) ニッケル 水素電池
- 3) 燃料電池概
- 4) 太陽電池
- 5) 電池に要求される事柄と社会への影響

(佐伯1)

- 6) 講義のアウトラインとアルミニウムの特性・特徴
- 7) マグネシウムの特性・特徴
- 8) チタンの特性・特徴
- 9) 銅の特性・特徴
- 10) 金属元素が人体に及ぼす影響や効果

(佐伯2)

- 11) 様々なセラミックス
- 12) セラミックスの性質
- 13) セラミックスの合成
- 14) 社会・家庭の中のセラミックス
- 15) 情報化社会を支えるセラミックス

授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class

事前: シラバスに記載された各材料を確認し、それらがどのようなものであるかを下調べしておくこと。

事後: 講義の内容に関して理解を深め、世の中でどのような役割を果たしているかを再確認しておくこと。

キーワード / Keywords

(阿部) 電池, 電気化学, エネルギー, 環境,
(佐伯) 金属, 特性・特徴, アルツハイマー病, 骨粗鬆症, セラミックス・機能,

履修上の注意 / Notices

(阿部) 現代社会における電池の重要性とその将来性について感じ取ってほしい。
(佐伯) 私達の身の周りにはどのような金属やセラミックスがどのような形で利用されているか、またそれがどのような機能を持っているかを講義に先立って注意深く観察して下さい。

教科書・参考書等 / Textbooks

・テキスト: 使用しない。
(阿部): 必要に応じて紹介します。
(佐伯): 必要な資料は配布します。
参考書等
(佐伯) 例えば、桜井弘: 金属は人体になぜ必要か, 講談社, (1996)
加藤誠軌: 「標準教書 セラミックス」、内田老鶴園

成績評価の方法 / Evaluation

“電池の科学”、“金属の科学”、及び “セラミックスの科学” において、それぞれ、レポート・演習等を総合して評価します。
さらに、これらの各評価を総合的に判断して「材料の科学」の成績を最終的に決定します。

関連科目 / Related course

技術の世界、技術と社会

リンク先URL

/ URL of syllabus or other information

備考 / Notes

授業科目名(英文名) / Course title	コンピュータの話 / Introduction to Computer				
担当教員(所属) / Instructor	高 尚策(工学部知能情報工学科)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 後期 火/Tue 5	対象所属 / Eligible Faculty	1年(人文), 1年(発達), 1年(経済), 2年(人文), 2年(理,工), 2年(発達), 2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	102275	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	高 尚策(工学部 大学院棟7階7708室, gaosc@eng.u-toyama.ac.jp)				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	高 尚策(在室時随時 メールで事前連絡してから訪問すること)				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
コンピュータの歴史や仕組み、インターネット、セキュリティといった、現代社会を生きる私たちが教養として備えておくべきコンピュータの基礎知識を、講義と自主的な探求を通して身に付けることを目的とする。					
達成目標 / Course Goals					
1) コンピュータの基礎知識を身に付ける。 2) 自主的な学修を通して発表・レポートを作成することで、基礎的な理解から自分の興味へと発展させる。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
第1回 人間の能力評価の変遷と社会への影響 第2回 コンピュータの出現 第3回 2進数の世界(初級・中級編) 第4回 コンピュータ内部での情報の表し方 第5回 2進数の世界(上級編) 第6回 コンピュータシステム 第7回 コンピュータの種類 第8回 コンピュータの利用形態とライフスタイルの変化 第9回 コンピュータネットワーク 第10回 セキュリティ 第11回 オペレーティング・システムとプログラミング言語 第12回 プログラミング言語 第13回 アプリケーションとソフトウェア 第14回 アプリケーション 第15回 コンピュータと社会の将来 講義の内容は教科書の章に沿っています。					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
事前学修: 教科書のキーワードを調べておくこと。 事後学修: 授業終了時に示す課題についてレポートや発表用資料を作成すること。					
キーワード / Keywords	コンピュータ、2進数、ネットワーク、セキュリティ、OS、プログラミング言語				
履修上の注意 / Notices					
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書: 吉田敬一著「教養・コンピュータ第4版」(共立出版, 2008) 2,300円+税				
成績評価の方法 / Evaluation	プレゼンテーション(50%)、レポート(50%)				
関連科目 / Related course					
リンク先URL / URL of syllabus or other information					
備考 / Notes					

授業科目名(英文名) / Course title	こころの科学 / Psychology				
担当教員(所属) / Instructor	小林 真(人間発達科学部)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 後期 木/Thu 5	対象所属 / Eligible Faculty	1年(理,工), 1年(発達), 1年(経済), 2年(人文), 2年(理,工), 2年(発達), 2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	102462	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact					
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours					
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals	行動という視点から、心の働きを客観的に捉えようとする考え方を学ぶ			
こころの科学(心理学)は人文科学系の教養原論である。心理学には、意識・感情・行動など様々な研究対象があるが、この授業では自然科学的な知見を心理学に導入し、心の働きを「行動」という視点からできるだけ客観的にとらえるという考え方(学習理論)を学ぶ。そして、行動科学としての心理学が精神疾患や不適応行動の改善(いわゆる「心のケア」)にどのように寄与してきたのかも紹介する。					
達成目標 / Course Goals					
1. 行動科学としての基本的な原理である、レスポナント条件づけ、オペラント条件づけ、モデリングの3つの理論の根幹となる概念を正しく説明できること。 2. これらの学習理論が、人間の精神疾患や不適応行動の改善にどのように適用されてきたか、代表的な事例を正しく説明できること。					
この授業は人文科学系科目であるので、受講者には、上記の2点を文章で説明することを求める。単語だけの説明や箇条書きではなく、正しい日本語で文章を用いて表現できることが達成目標である。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
1 心理学とは・行動科学としての心理学の誕生 2 レスポナント(古典的)条件づけの原理 - パブロフの犬の実験例 - 3 レスポナント条件づけに関連する諸概念・人間への適用例 (恐怖の条件づけ) 4 レスポナント条件づけの人間への適用例 (恐怖症の治療) 5 レスポナント条件づけの人間への適用例 (夜尿症の治療) 6 オペラント(道具的)条件づけの原理 - スキナーのネズミの実験例 - 7 オペラント条件づけに関連する諸概念 - 強化と弱化的原理 - 8 嫌悪刺激に関する条件づけ 9 オペラント条件づけの人間への適用例 (プログラム学習) 10 オペラント条件づけの人間への適用例 (学級経営・生徒指導について) 11 オペラント条件づけの人間への適用例 (摂食障害の治療) 12 モデリングの原理 13 モデリングに関連する諸概念 - 代理強化 - 14 モデリングの適用例 15 認知と行動を融合した心理療法 16 学期末試験					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
一般の心理学のテキストを各自で参照し、 ・レスポナント条件づけ ・オペラント条件づけ ・モデリング の理論についての事前・事後学習を行うこと。					
認知療法 / 認知行動療法については、近年は一般向けの書籍も多いので、これらを参照すること。					
キーワード / Keywords	行動科学 学習理論 条件づけ 行動療法 認知行動療法 モデリング 心のケア				
履修上の注意 / Notices					
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書は使用しない。その都度資料を配付する。				

成績評価の方法 / Evaluation	論述式の試験を課す。 内容は学習理論に関する概念を説明する問題で、10問出題する(1問10点)。
関連科目 / Related course	
リンク先URL / URL of syllabus or other information	
備考 / Notes	

授業科目名(英文名) / Course title	現代と教育 / Present Day and Education		
担当教員(所属) / Instructor	土井 徹(人間発達科学部)		
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目		
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 後期 木/Thu 5	対象所属 / Eligible Faculty	1年(理,工), 1年(経済), 2年(人文), 2年(理,工), 2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工)
時間割コード / Registration Code	102463	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年 単位数 / Credits 2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact			
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	土井 徹(毎週水曜日 12:00 ~ 13:00)		
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日		
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals		
科学的リテラシーに関する国際学力調査の結果を把握するとともに、現在までに提案されている理科学習指導方法論を理解し、科学教育の目的論について理解を深める。			
達成目標 / Course Goals			
科学的リテラシーとは何かについて理解する。 科学教育の目的論や学習指導方法論の現状についての理解を深める。			
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule			
第1回 PISA2015の調査概要と結果概要 第2回 科学的リテラシーとは何か 第3回 新しい科学観 第4回 外来種問題について考える(1) 移入の経緯 第5回 外来種問題について考える(2) 外来種とどうつきあうか 第6回 地球温暖化について考える 第7回 アクティブラーニング 第8回 知識構成型ジグソー法 第9回 仮説実験授業 第10回 科学的な思考(1) 理論と事実 第11回 科学的な思考(2) 仮説の立て方・仮説の検証 第12回 欧米諸国が考える理科の学力 第13回 アジア諸国が考える理科の学力 第14回 小学校から高等学校までの円滑な学びのつながり 第15回 まとめ			
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class			
科学教育, 科学的リテラシー, 新しい科学観, 理科学習指導方法論, PISAといった本授業のキーワードについて, 授業前後に情報収集を行い, 概略をまとめておくこと。			
キーワード / Keywords	科学教育, 科学的リテラシー, 新しい科学観, 理科学習指導方法論, PISA		
履修上の注意 / Notices	* 必ず出席すること。欠席3回以上は不可とする。 * 受講希望者が多数の場合は人数制限を行うので, 希望者は第1回目の授業に必ず出席すること。 * 小グループでのディスカッションを行うことがあるので, 自分の考えを積極的に述べること。授業中に意見を求めることもある。 * 毎回, 授業内でA4用紙1枚程度のレポートを課す。そのレポートの提出をもって出席と認める。 * 講義で扱うテーマに関わる課題図書を読み, 学び得た内容と記述に対する自分の考えを4800字(A4用紙3枚)にまとめるレポート課題を課す。課題図書は, 第1回目の授業で連絡する。 * 受講者の興味・関心に応じて, 授業計画を柔軟に変更して実施する予定である。		
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書は特に定めず, 資料を適宜配布する。 参考図書は授業中に紹介する。		

成績評価の方法 / Evaluation	<p>毎回提出するレポートの内容（50％）、課題レポート（4800字）の内容（30％）、授業態度（ディスカッションへの参加姿勢等）（20％）を総合的に評価する。</p> <p>レポートの評価規準：既存の複数の学説等を踏まえた上で、自分はどのように考えるのかを述べることができる。</p> <p>授業態度の評価規準：ディスカッションでは積極的に自分の考えを述べるができる。また、授業中に生じた疑問を積極的に表現することができる。</p>
関連科目 / Related course	
リンク先URL / URL of syllabus or other information	
備考 / Notes	

授業科目名(英文名) / Course title	外国文学 / Foreign Literature				
担当教員(所属) / Instructor	赤尾 千波(人文学部)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 後期 木/Thu 5	対象所属 / Eligible Faculty	1年(理,工), 1年(発達), 1年(経済), 2年(人文), 2年(理,工), 2年(発達), 2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	102464	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	赤尾 千波(Office: No. 223, Faculty of Humanities Office phone number: 0764456221)				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	赤尾 千波(Spring Semester: Tuesday 13:30 - 14:30/Fall Semester: Friday 13:30 - 14:30/By appointment)				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
アメリカの文学と映画について、黒人ステレオタイプ分析を軸に、学びます。					
達成目標 / Course Goals					
<ul style="list-style-type: none"> * アメリカの大衆文学と娯楽映画にはどのような特徴があるか、理解する。 * 文学と映画における人種ステレオタイプとはどのようなものか理解する。 * 映画化された文学作品について、両者を比較検討する。 * 文学や映画について理解したこと、発見した問題点について文章化し、レポートにまとめることができる。 					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
1回 テキストの説明と講義					
2回から14回は、テキストを1Unit ずつ読み進めます。回によって映画の1場面を観たり、原作小説の一節を読んだりします。問題を解いたり、ディスカッションを行う場合もあります。2回目は、テキストのUnit 1「恐怖と希望を表す黒人大統領像 映画『国民の創生』研究について講義、映画視聴、文学作品講読をします。(以下同様)					
3回 テキストUnit 2恐怖と希望の「黒人大統領」 映画『フィフス・エレメント』について					
4回 テキストUnit 3恐怖と希望の「黒人大統領」 映画『ヒップホップ・プレジデント』について					
5回 テキストUnit 4マジカル・ニグロ 映画『グリーンマイル』について					
6回 テキストUnit 5スパイク・リーの映像世界 映画『バンブーズルド』について					
7回 テキストUnit 6ネオブラクスプロイテーション 映画『ハッスル&フロウ』について					
8回 テキストUnit 7ホワイトニングされる主人公: 映画と原作小説 『ゲド戦記』					
9回 テキストUnit 8ホワイトニングされなかった主人公: 映画と原作小説 『タイムマシン』					
10回 テキストUnit 9おとこ目線の映画版とおんな目線の原作小説 『フォー・カラード・ガールズ』					
11回 テキストUnit 10映像化で可視化される人種: 映画と原作小説 『ハンガー・ゲーム』					
12回 テキストUnit 11宇宙人の顔をした非白人 映画『スター・ウォーズ・エピソード 』					
13回 テキストUnit 12宇宙人の顔をした非白人 映画『エイリアン』 『プロメテウス』					
14回 テキストUnit 13宇宙人の顔をした非白人 映画『アバター』					
15回 まとめと補足					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
毎回、次の授業までに、テキストの1ユニットを予習し、ユニット末の「発展課題」について考えてくる。					
キーワード / Keywords	アメリカ大衆文学、アメリカ映画、人種ステレオタイプ、アフリカン・アメリカン、American Literature, American Movies, Racial Stereotypes, African Americans				
履修上の注意 / Notices					
教科書・参考書等 / Textbooks	赤尾千波著『アメリカ映画に見る黒人ステレオタイプ』(富山大学出版会/梧桐書院、2015年 1944円)を教科書売り場で購入してください。				
成績評価の方法 / Evaluation	<p>テキストの発展課題を中心に、毎回授業の最後に小テストを行います。また、テキスト「ディスカッション・トピック」にもとづいて、ディスカッションを行います。</p> <p>小テストの出来栄え90パーセント、ディスカッションへの参加度10パーセントとして、総合的に評価していきます。</p>				
関連科目 / Related course	英語B 英米言語文化講読、英米言語文化演習、英米文化論				
リンク先URL / URL of syllabus or other information	http://www.hmt.u-toyama.ac.jp/eibei/Akao/index.htm				

授業科目名(英文名) / Course title	市民生活と法 / Law and Society				
担当教員(所属) / Instructor	香川 崇(経済学部経営法学科), 森嶋 秀紀(経済学部経営法学科)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 後期 木/Thu 5	対象所属 / Eligible Faculty	1年(人文), 1年(理,工), 1年(発達), 2年(人文), 2年(理,工), 2年(発達), 2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	102467	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact					
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	香川 崇(木曜12:00~13:00)				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
われわれの社会活動において、法律との関わりは避けては通れません。とりわけ、民法(とその特別法)は皆さんの日常生活に密接に関連するものです。例えば、詐欺によって契約を結ばされてしまった者がどのような権利を有するのか、交通事故の被害者はどのような権利を有するのかを民法は定めています。 本講義では、民法の中でも、社会人として最低限知っておいた方がよいと思われる基礎知識について学びます。なお、民法については、消費者救済のために制定された特別法についても言及したいと思います。					
達成目標 / Course Goals					
民法(とその特別法)について、日常生活を送る上での最低限の知識を得る。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
前半8回を森嶋、後半8回を香川が講義を担当する。					
【前半】[森嶋担当部分](なお、講義の進み具合により変更の可能性あり) 第1回 ガイダンス、六法の使い方、法律学の専門用語や基本概念等について 第2回、第3回 未成年者と消費者契約 第4回 高齢者と悪徳商法 第5回 商品をクレジットで買ったなら? 第6回 インターネット通販でトラブル? 第7回 英会話レッスンを途中でやめたら? 第8回 外食して食中毒にかかったら? 理解度確認テスト					
【後半】[香川担当部分](なお、講義の進み具合により変更の可能性あり) 第1回 家族法に関するイントロダクション 家族法は何を定めているのか? 第2回 長年別居している妻と離婚したい 結婚と離婚に関する基本ルール 第3回、第4回 血液検査で親子関係が否定されたら? 親子関係に関する基本ルール 第5回 代理母から子供が生まれたら? 技術の進展と親子関係 第6回 親が死亡した時にその財産はどうなるの? 相続に関する基本ルール 第7回 亡くなった親が遺言を残していたら? 遺言に関する基本ルール 第8回 試験					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
事前学修 インターネットや図書館などを用いて、講義のテーマに関係する社会問題について知っておくこと。					
事後学修 授業のノートや授業で配布されたレジュメを用いて、授業で学んだ事柄を復習する。					
キーワード / Keywords	民法				
履修上の注意 / Notices	法律の勉強は簡単ではありません。しかし、根気強く、繰り返し勉強すればいずれ理解できます。簡単にあきらめることなく、しっかり勉強して下さい。				
教科書・参考書等 / Textbooks	講義には「六法」を必ず持ってくること(「ポケット六法」「デイリー六法」など)。				
成績評価の方法 / Evaluation	前半最終回(第8回)の理解度確認テストと後半最終回(第8回)の試験の点数を合算して評価する。				
関連科目 / Related course					
リンク先URL / URL of syllabus or other information					
備考 / Notes					

授業科目名(英文名) / Course title	産業と経済を学ぶ / Industry and Economy				
担当教員(所属) / Instructor	両角 良子(経済学部経済学科)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 後期 木/Thu 5	対象所属 / Eligible Faculty	1年(人文), 1年(理,工), 1年(発達), 2年(人文), 2年(理,工), 2年(発達), 2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	102468	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact					
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours					
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
<p>・この授業のねらいは、様々な労働統計から、今日までの日本の労働市場の現状を理解することです。授業では、就職活動を始める前に、日本の労働市場について事前に理解しておいたほうが良い点を、様々な統計資料から見ていきます。具体的には、</p> <p>(1)今の日本の労働市場が過去から現在にいたるまでに、どのように変化してきたか、</p> <p>(2)賃金や就業機会がどのようにきまるのか、</p> <p>(3)離職や転職、解雇や失業の現状がどうなっているのか、</p> <p>といった点を学術的に検討していきます。</p> <p>・カリキュラム上の位置づけとしては、教養教育(社会科学系)の労働分野の授業です。産業や経済活動を考える際に、労働の視点を重視する授業です。</p>					
達成目標 / Course Goals					
この授業を履修して、一般学習目標の内容を習得した結果、基本的な労働統計の読み方、基本的な労働需要・労働供給の理論モデル、人的資本の概念、労働問題に関係する基本的な経済学的視点についての知識を身につけることができます。これらは現実の労働問題を考える際のバックグラウンドとなります。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
第01回 労働市場 第02回 人口・労働力 第03回 労働者：自営から雇用へ、雇用・採用、男性と女性 第04回 労働者：若年・中年と高齢者、正規と非正規 第05回 労働者：低学歴と高学歴、新卒採用と中途採用 第06回 賃金：賃金格差・賃金プロファイル 第07回 賃金：学歴・性別・差別 第08回 賃金：企業規模・企業内 第09回 離職・転職：離職理由・若年層の離職 第10回 離職・転職：早期退職・職探し・転職のメリット・デメリット 第11回 解雇・失業：雇用機会の減少・雇用調整 第12回 解雇・失業：失職のリスク・雇用保険・失職のコスト 第13回 労働時間と余暇時間：生活時間配分 第14回 労働時間と余暇時間：健康・ワークライフバランス 第15回 授業の振り返り及び試験(ペーパーテスト)					
履修者の理解度に合わせてすすめます。上記は目安です。					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
少し先の回で使用する資料を、授業の際に事前に配付しますので、資料内の参考文献リストにある文献等を予め見ておいてください。					
キーワード / Keywords	労働統計、労働市場、労働者、賃金、就職、離職、転職、労働時間、余暇時間				

履修上の注意 / Notices	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容はもりだくさんです。本当に意欲的な人だけが受講してください。勉強熱心でない人・楽に単位を取りたい人には、おすすめしません。きちんとこの科目に取り組む気持ちのある人だけが履修登録をしてください。（成績評価に「評価外」がある入学年度の方へ：履修登録だけして定期試験を受けない人は「評価外」ではなく「不可」として処理します。） ・シラバスをきちんと読んでから履修登録をしてください。 ・1回目の授業で、授業を受ける際の履修マナー（シラバス内の「履修上の注意」にある項目とそれに付随する内容）や授業の内容、成績評価の方法を説明します。この授業科目の連絡は、授業中のほか掲示で随時行います。 ・電子メールで教員に連絡をとる際は、必ずタイトルと自分の名前を書いてください。それらのないメールは、スパムメールと判断する場合があります。 ・合理的配慮が必要な方は、事前に連絡してください。また、開講期間中に、必要性が判明しましたら、すみやかに連絡してください。終了した定期試験に対して、後から配慮を求めるケースには対応しません。 ・授業中の様子を無断で撮影・録画・録音することや無断で配布・公開することを禁じます。 ・授業中の資料を無断で配布・公開することを禁じます。
教科書・参考書等 / Textbooks	<p>配布資料： 授業時に配布します。（少し先の回で使用する資料を、授業の際に事前に配付します。）</p> <p>教科書： 阿部正浩・松繁寿和編（2014）『キャリアのみかた 改訂版 図でみる110のポイント』有斐閣</p>
成績評価の方法 / Evaluation	<ul style="list-style-type: none"> ・持ち込み不可のペーパーテストによって成績を評価します。ペーパーテストは、授業内容の理解度と、身につけた知識等を用いた応用力・考察力を確認するものです。理解度・応用力・考察力を成績評価の判断基準とします。 ・履修マナーを守らない行為は減点対象となります。
関連科目 / Related course	
リンク先URL / URL of syllabus or other information	https://sites.google.com/site/ryokomorozumi/
備考 / Notes	<ul style="list-style-type: none"> ・オフィスアワーについて 連絡先：morozumi@eco.u-toyama.ac.jp 特定の時間にオフィスアワーをもうけません。質問等がある方は、電子メールで面会したい旨と希望する日時の候補（複数）をお知らせください。その際、電子メールのタイトルは「面会希望」としてください。

授業科目名(英文名) / Course title	経営資源のとらえ方 / Management Resources		
担当教員(所属) / Instructor	真部 典久(経済学部経営学科)		
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目		
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 後期 木/Thu 5	対象所属 / Eligible Faculty	1年(人文), 1年(理,工), 1年(発達)
時間割コード / Registration Code	102469	対象学年 / Eligible grade	1年 単位数 / Credits 2.0
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact			
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	真部 典久(月曜日11:00 - 12:00 経済学部棟6階 636研究室にて)		
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日		
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals		
皆さんの周りには数多くの組織が存在します。代表的な組織として企業を挙げることができます。企業には様々な業種があります。例えば、商業を営む企業であれば、資金を調達し、店舗を構え、従業員を雇い、商品を仕入れ、それを販売し、資金を回収します。製造業を営む企業であれば、資金を調達し、工場を建設し、従業員を雇い、原材料を仕入れ、工場加工や組立を行い、出来上がった製品を販売し、資金を回収します。企業が他社との競争のなかで生き残っていくためには、こうした経営活動の良し悪しを評価し、問題があれば、それを解決していく必要があります。経営活動の良し悪しは会計数値によって評価することができます。例えば、「自社はどれほど効率的に利益を上げているのか?」、「他社と比較して自社の売上高や利益の伸び率はどうか?」といったように、会計数値に基づき経営内容を分析し評価することで、企業の現状や問題点が明らかになります。この授業の目的は、簿記・会計、ならびに財務諸表分析の基礎を身につけることにあります。			
達成目標 / Course Goals			
<ul style="list-style-type: none"> ・簿記・会計の基本を習得すること。 ・財務諸表のデータから各種指標を計算し、企業の経営内容を分析・評価できるようになること。 			
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule			
01. 講義ガイダンス 02. 財務諸表の読み方 (1) ... 貸借対照表の読み方 03. 財務諸表の読み方 (2) ... 損益計算書の読み方 04. 財務諸表の作り方 (1) ... 簿記上の取引 05. 財務諸表の作り方 (2) ... 仕訳 06. 財務諸表の作り方 (3) ... 転記 07. 財務諸表の作り方 (4) ... 決算 08. 前半のまとめとテスト 09. 財務諸表の使い方 (1) ... 収益性・効率性の分析 10. 財務諸表の使い方 (2) ... 安全性の分析 11. 財務諸表の使い方 (3) ... 生産性の分析 12. 財務諸表の使い方 (4) ... 利益構造の分析 13. 財務諸表の使い方 (5) ... 総合評価の方法 14. 財務諸表の使い方 (6) ... 分析の実践 15. 後半のまとめとテスト			
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class			
講義用のプリントを参考にして、興味や関心のある企業の財務諸表を実際に読み・分析すること(財務諸表は企業のホームページ等から入手できます)。			
キーワード / Keywords	簿記・会計, 財務諸表分析		
履修上の注意 / Notices	<ul style="list-style-type: none"> ・電卓を持参すること。 ・私語は厳禁。 		
教科書・参考書等 / Textbooks	講義用のプリントを配付します(教科書は使用しません)。 経済学部棟2階エレベーター前に設置されている棚にて次回分のプリントを配付するので事前に受け取ること。 参考書 鈴木基史・藤田 寛『事例とドリルで学ぶ企業総合分析』中央経済社, 2014年。		
成績評価の方法 / Evaluation	授業中に実施するテスト(1回目: 30点, 2回目: 70点)に基づき評価します。		
関連科目 / Related course			
リンク先URL / URL of syllabus or other information			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) / Course title	生命の世界 / Biological Science				
担当教員(所属) / Instructor	伊野部 智由(工学部生命工学科), 山本 将之(理学部生物学科), 土田 努(理学部生物学科)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 後期 木 / Thu 5	対象所属 / Eligible Faculty	1年(人文), 1年(発達), 1年(経済), 2年(人文), 2年(理, 工), 2年(発達), 2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	102471	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	山本 将之(mpyama(at)sci.u-toyama.ac.jp (送信の際に、(AT)を@に変更してください。)) 土田 努(tsuchida(AT)sci.u-toyama.ac.jp メール送信の際に、(AT)を@に変更)				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	山本 将之(事前にメールで問い合わせてください。) 土田 努(面談時間を決めるので、メールで問い合わせてください)				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
本講義では、動物や植物などのマクロレベルの生物学から、遺伝子やタンパク質などのミクロレベル生物学まで、幅広く生命の世界を俯瞰します。生命の設計図であるミクロな遺伝子が、どのようにしてマクロレベルの生物学に結びつくのかイメージできるようにすることを目指します。					
達成目標 / Course Goals					
1、遺伝子の仕組みを理解すること。 2、タンパク質の形は働きを理解すること。 3、生物間相互作用を理解すること。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
(伊野部担当分) 第1週: 授業ガイダンス / 身の回りにあるタンパク質 第2週: タンパク質の形 第3週: タンパク質の働き 第4週: タンパク質をつくる・改造する 第5週: タンパク質が開く未来・理解力テスト					
(土田担当分) 第6週: イントロダクション・共生とは何か? 第7週: 生態系を構成する共生関係 第8週: 微生物との共生関係 第9週: 昆虫と微生物との密接な共生関係 第10週: 人の生活と共生・理解力テスト					
(山本担当分) 第11週: イントロダクション: 作物育種における生物学と分子遺伝学の基礎 第12週: 作物の起源と栽培化 第13週: 作物の育種と育種技術 第14週: 遺伝子組換え作物					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
事前学習: 前回までの配付資料, 授業ノートに目を通しておくこと 事後学習: 当日の講義ノートをまとめておくこと。随時、課題を課すのでレポートを作成すること。					
キーワード / Keywords	(伊野部担当分) タンパク質、酵素 (土田担当分) 生物間相互作用、共生、微生物 (山本担当分) 作物、遺伝、分子生物学				
履修上の注意 / Notices	5回以上欠席した場合や、遅刻が著しく多い場合は、評価にかかわらず不可とする。				
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書の指定なし。配布資料を中心に講義を進める。				
成績評価の方法 / Evaluation	各担当教員ごとに3等分に配点し、それぞれ受講態度と、試験(伊野部、土田担当分)、レポート(山本担当分)を総合して評価する。				
関連科目 / Related course					
リンク先URL / URL of syllabus or other information					
備考 / Notes					

授業科目名(英文名) / Course title	技術の世界 / Technology				
担当教員(所属) / Instructor	鈴木 正康(工学部電気電子システム工学科), 伊藤 弘昭(工学部電気電子システム工学科)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 後期 木/Thu 5	対象所属 / Eligible Faculty	1年(人文), 1年(発達), 1年(経済), 2年(人文), 2年(理,工), 2年(発達), 2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	102472	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	鈴木 正康(鈴木正康(大学院棟6階7605号室, suzukimy [at] eng.u-toyama.ac.jp))				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	鈴木 正康(講義当日の5限目)				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
<p>技術に関する諸現象や、社会における技術の役割を知ることで、技術立国に対する基礎知識を与える。 (前半)「エネルギー・環境問題と電気エネルギー技術」 現在、エネルギー(電気)問題は非常に重要な問題となっている。この授業では、電気エネルギー発生法など基盤技術について解説し、日本を含めた世界各国の太陽光発電・風力発電に代表される再生エネルギーへの取り組みについて説明する。 (後半)ヒトの五感(視覚、聴覚、味覚、嗅覚)と機械の五感であるセンサを比べながらその仕組みを説明する。またビッグデータ解析などセンサの発展によって作り出されるこれからの社会について話す。</p>					
達成目標 / Course Goals					
(前半)エネルギー問題や環境問題が直面している現状を把握するとともに、その問題への関心が深まること。 (後半)ヒトの五感の仕組みを理解し、身の回りのいろいろなセンサとの共通点や違いを理解する。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
【1)~7)は伊藤が担当、8)~15)は鈴木が担当する】					
1) エネルギー問題と環境問題					
2) 電気の基礎と電気エネルギー					
3) 電気エネルギー発生技術 - 各発電のしくみ -					
4) 日本のエネルギー事情					
5) 日本の新エネルギー発電への取り組み					
6) 世界の主要各国の電力エネルギー事情					
7) 原子力発電の事故例と安全対策					
8) 見る(1)ヒトの視覚のしくみ					
9) 見る(2)デジカメのしくみ					
10) 聴く					
11) 触る(ヒトの触覚と圧力・温度センサ)					
12) 味とにおい(1)ヒトの味覚と嗅覚のはなし					
13) 味とにおい(2)においセンサと味センサ					
14) センサが創り出すこれからの社会					
15) まとめ					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
講義内容をノートに整理しながら、与えられた課題を行うこと。					
キーワード / Keywords	(前半)電気エネルギー、エネルギー・環境問題、再生可能エネルギー (後半)視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚、センサ、ビッグデータ				
履修上の注意 / Notices	教科書等は使用しないので、履修者は毎回出席すること。				
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書：使用しない 参考書：(後半)山崎弘郎著「トコトンやさしいセンサの本」日刊工業新聞社				
成績評価の方法 / Evaluation	出題するレポート(宿題)(30%)とテストの合計(70%)にて評価する。 前半と後半の平均点で評価する。				
関連科目 / Related course					
リンク先URL / URL of syllabus or other information					
備考 / Notes					

授業科目名(英文名) / Course title	コンピュータの話 / Introduction to Computer				
担当教員(所属) / Instructor	中島 一樹(工学部電気電子システム工学科)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 後期 木/Thu 5	対象所属 / Eligible Faculty	1年(人文), 1年(発達), 1年(経済), 2年(人文), 2年(理,工), 2年(発達), 2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	102473	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact					
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours					
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
毎回の授業で疑問点があれば、すぐに質問すること。					
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
皆さんは、生まれた頃からコンピュータに接してきています。コンピュータの内部には非常に沢山の半導体利用されているのをご存じでしょうか。日本の半導体関連の企業は、1980年代の終わりに世界を席巻していました。本授業では、コンピュータの歴史を学ぶと共に日本の技術者がどのように半導体産業を発展させ、そして世界で1番になったのかを紹介します。そしてコンピュータやスマートフォンが動く仕組みを学び、将来、コンピュータがどのように発展して行くかを考察することを目標とします。					
達成目標 / Course Goals					
コンピュータおよび重要部品である半導体開発や製造技術に関する歴史、コンピュータの構造などを学ぶことで、発展し続けるコンピュータの未来を考察することができる。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
1: 社会生活とコンピュータ 2: コンピュータの歴史(計算機とは) 3: コンピュータの歴史(戦争と計算機) 4: コンピュータの歴史(電子計算機) 5: 半導体とコンピュータ(半導体産業の誕生) 6: 半導体とコンピュータ(トランジスタの誕生) 7: 半導体とコンピュータ(半導体での電気回路) 8: 半導体とコンピュータ(電卓戦争) 9: 半導体とコンピュータ(集積回路) 10: 半導体とコンピュータ(マイクロン世界) 11: コンピュータのハードウェア 12: スマートホンのハードウェア 13: コンピュータのソフトウェア 14: コンピュータネットワーク 15: まとめ					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
身の回りにあるコンピュータについて興味を持ち、どのように生活に関わっているかを考える。					
キーワード / Keywords	半導体、トランジスタ、コンピュータ				
履修上の注意 / Notices					
教科書・参考書等 / Textbooks	なし				
成績評価の方法 / Evaluation	毎回実施する小レポートにより評価する。S:90点以上、A:80-89点、B:70-79点、C:60-69点、不合格:60点未満				
関連科目 / Related course					
リンク先URL / URL of syllabus or other information					
備考 / Notes					

授業科目名(英文名) / Course title	地域ライフプラン				
担当教員(所属) / Instructor	金岡 省吾(地域連携推進機構), 定村 誠(地域連携推進機構), 尾山 真(地域連携推進機構)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	地域志向科目	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 後期 木/Thu 5	対象所属 / Eligible Faculty			
時間割コード / Registration Code	106702	対象学年 / Eligible grade	1年 ,2年 ,3 年 ,4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	定村 誠(jomura@ctg.u-toyama.ac.jp) 尾山 真(oyama@ctg.u-toyama.ac.jp)				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	定村 誠(前期は、月曜午後、水曜2限、金曜5限以外の時間帯は、地域連携戦略室にいる可能性が高い。外出している場合もあるので事前にメールで確認してください。)				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
<p>「地域ライフプラン」は、未来の地域リーダー育成のための地域志向科目です。富山県内の地方公共団体や企業などと連携し、地域の人々のさまざまな視点から地域に住むことについて話を聞き意見交換することを通して、地域への意識・愛情・愛着を醸成し、地域におけるライフプランを想定・作成することを目的としています。</p> <p>また、地域の魅力や課題、地域で暮らすことの意味や意義、地域で暮らす際に求められる人材としての意欲や見識などについて考えることを通じて、地域コミュニティー・マインドを涵養することも目的としています。</p>					
達成目標 / Course Goals					
<p>人口減少、少子高齢化など、日本では地域の環境が急激に変化しています。そのような状況の中で、地方公共団体や企業・団体、NPO等がさまざまな取組を展開しています。</p> <p>地域で住むということについて、さまざまな視点から情報を提供し、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富山の魅力や課題を再発見する。 ・課題に対する地方公共団体や企業・団体等の取組を知る。 ・地域におけるライフプランを想定・作成する。 <p>ことがこの授業の達成目標です。</p>					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
<p>富山県内の地方公共団体や企業・団体等からゲストスピーカーを招き、富山で生きることをさまざまな視点から紹介していただき、さらにゲストスピーカーとのディスカッションを通して理解を深めます。</p> <p>各回の講演等(40分程度)の後、ワークショップを行って他の受講者と考えを共有することで、更に地域の魅力や課題の理解を深めます。</p> <p>また、全体を通して自らのライフプランを想定、作成します。</p>					
<p>10/5 第1回 ガイダンス(授業の進め方、COC+事業の説明、富山県の取組紹介)ゲストスピーカー(富山県・北日本放送)、地域連携戦略室 定村 誠</p> <p>10/12 第2回 ライフプラン分析 地域連携戦略室 尾山 真</p> <p>10/19 第3回 「地域で生きること」ゲストスピーカー(魚津三太郎塾 コワーキングスペースmachi-co代表 島澤 達也様)、地域連携戦略室長 金岡 省吾</p> <p>10/26 第4回 ライフプランのヒント「結婚・子育て」(滑川市長 上田昌孝様)</p> <p>11/2 第5回 ライフプランのヒント「子育てから老後まで」(朝日町長 笹原靖直様)</p> <p>11/9 第6回 富山(富山市)で暮らす(富山市都市政策課課長代理 佐野正典様)</p> <p>11/16 第7回 富山(上市町)で暮らす(上市町)</p> <p>11/30 第8回 富山(入善町)で働く(入善町企画財政課主幹 田中良一様)</p> <p>12/7 第9回 富山(射水市)で暮らす(射水市新湊博物館主任学芸員 松山充宏様)</p> <p>12/14 第10回 富山で働く(富山県機電工業会)</p> <p>12/21 第11回 富山(氷見市)で働く(氷見市)</p> <p>1/11 第12回 富山の未来を語る(魚津市長 村椿晃様)</p> <p>1/18 第13回 富山の未来を語る(南砺市長 田中幹夫様)</p> <p>1/25 第14回 共創による社会ソリューション創出(NECソリューションイノベータ(株)北陸支社 金山義男様)</p> <p>2/1 第15回 まとめ「私のライフプラン」</p>					
<p>講義内容などはゲストスピーカーの都合等により変更する場合があります。変更がある場合は、授業及びシラバス上で通知します。</p>					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
<p>各回の講義に向けて、ゲストスピーカーやテーマをシラバス等で確認し、事前にインターネットで情報検索等により事前学修してください。各回の講義に関するキーワードも事前に提示します。</p> <p>講義やワークショップで扱った内容について、情報検索等による事後学修をおこない、理解を深めてください。</p>					
キーワード / Keywords	富山 地域 ライフプラン 結婚 子育て 老後 住む 働く 未来				

履修上の注意 / Notices	<p>ゲストスピーカーをお招きする回では、小グループでのワークショップを行います。しっかりと話を聞き、自分の考えをまとめてください。ワークショップでは積極的に話し合いに参加することが求められます。</p> <p>また、グループでの話し合いの結果を発表する時間も設けます。</p>
教科書・参考書等 / Textbooks	特に指定しない。
成績評価の方法 / Evaluation	<p>各回のコメントシート：60%</p> <p>授業に対する姿勢（発表やコメントシートの記述内容など）：20%</p> <p>最終レポート：20%</p>
関連科目 / Related course	
リンク先URL / URL of syllabus or other information	
備考 / Notes	この「地域ライフプラン」は、テレビ会議システムを用いて県内の高等教育機関への双方向ライブ配信を行います。

授業科目名(英文名) / Course title	ロシア語 B (4) / Russian B				
担当教員(所属) / Instructor	武田 昭文(人文学部)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 共通基礎科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	演習科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 後期 月 / Mon 2	対象所属 / Eligible Faculty			
時間割コード / Registration Code	104101	対象学年 / Eligible grade	2年 ,3年 ,4年	単位数 / Credits	1単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	武田 昭文(武田研究室(322)), 電話: 076-445-6190, E-mail: takeda@hmt.u-toyama.ac.jp)				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	武田 昭文(月・火 12:30~13:00 メールで事前連絡してから訪問すること)				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
1. 初級文法と専門領域で使われるロシア語のあいだのギャップを埋める。 2. これまでに学んだ知識を確かめ、反復しながら進む。 3. ロシア語の多面性に触れる。 後期は、映画・アニメのロシア語を聞きとり、新聞や雑誌のニュースから現代ロシア事情について読みながら、更に幅広く深く文法事項を学んでゆく。					
達成目標 / Course Goals					
辞書を使って、多様なジャンルの比較的やさしいロシア語の文章が読めるようになる。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
第1回 ガイダンス					
第2回	11 "		" (戦艦ポチョムキン)		
第3回	12 "		" (罪と罰)		
第4回	13 "		" (小犬を連れた奥さん)		
第5回	14 "		" (レニングラード時間)		
第6回	15 "			" (マクドナルドのモスクワ進攻)	
第7回	マクドナルドのモスクワ進攻・続き				
第8回	文法の確認(1)				
第9回	16 "		?" (何に向かえばよいのか)		
第10回	何に向かえばよいのか・続き				
第11回	17 "			" (食費を切り詰めるとしたら)	
第12回	食費を切り詰めるとしたら・続き				
第13回	18 "			" (頼みの綱は常識)	
第14回	頼みの綱は常識・続き				
第15回	文法の総合的確認				
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
各課の予習・復習を不可欠とする。					
キーワード / Keywords					
履修上の注意 / Notices	ロシア語A既習者を対象とする。				
教科書・参考書等 / Textbooks	『ロシア語、次のステップ』(山崎紀美子・井桁貞義共著、くろしお出版)				
成績評価の方法 / Evaluation	各授業に課される課題の予習状況、授業中における文法事項の理解度、文章読解力、及び日本語への翻訳能力(各25%)を総合的にみて評価する。				
関連科目 / Related course					
リンク先URL / URL of syllabus or other information					
備考 / Notes					

授業科目名(英文名) / Course title	中国語 B (4) / Chinese B				
担当教員(所属) / Instructor	末岡 宏(人文学部)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 共通基礎科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	演習科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 後期 木/Thu 5	対象所属 / Eligible Faculty			
時間割コード / Registration Code	104203	対象学年 / Eligible grade	2年 ,3年 ,4年	単位数 / Credits	1単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	末岡 宏(研究室:人文学部414号室 メールアドレス:sueoka@hmt.u-toyama.ac.jp Tel 445-6189 研究室に不在のことも多いので、できるだけメールで前もって連絡を下さい。 毎日メールは見ています。返事はPCからのメールでしますので、スマートフォンなどではPCのメールを受けるようにして下さい。)				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	末岡 宏(金曜日 10:30-12:00 月曜日 14:30-16:30)				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
CALLを利用しますので、第1回目の授業時に情報基盤センターから配布された、ID、パスワードを記入した配布物を持参して下さい。					
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
<p>一年次の中国語A・AGで修得した中国語をもとに、会話力、表現力、読解力のさらなる向上をを目指します。 CALLシステムを使うことで、ネイティブスピーカーの会話を聞きながら読む、聞く、話すの総合的な中国語運用能力のレベルを向上させます。 CALLシステムを使うことで、各自のレベルに応じた学習をし、ネイティブスピーカーの会話を聞きながら読む、聞く、話す、書くの総合的な中国語運用能力のレベルを向上させる方法を身につけます。</p>					
達成目標 / Course Goals					
<p>中級程度の読む、聞く、話すの中国語の運用能力を身につけ使いこなせるようにする。 文章が正しく理解できること。 日常会話力が身につくこと。 中国語の文法を体系的に理解し応用できる。</p>					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
<p>・授業の形式 中国語Bでは、週に1~2コマの授業を履修することになります。</p> <p>・授業の進め方 第1回 ガイダンス 語学学習ソフトウェア - テストの使い方 中国語運用能力判定(プレテスト) 4級 第2回 語学学習ソフトウェア各ユニットの使い方 第3回 インターネット 第4回 恋愛 第5回 芸能 第6回 スポーツ 第7回 病院 第8回 中間まとめ(ミニテスト) 中国語運用能力判定 3級 第9回 銀行 第10回 郵便局 第11回 美容院 第12回 家 第13回 緊急時の会話 第14回 重要フレーズ 第15回 まとめ(ミニテスト) 中国語運用能力判定 3級 基本的な会話文の理解と発音練習・例文を中心とした文法の解説・ヒアリング・表現の練習のサイクルを繰り返し行います。 発音を完全にマスターし、なおかつ聴いて理解できるようになるには、授業以外の時間にも繰り返し練習しなければ不可能です。音声教材などを有効に利用して練習を繰り返してください。 言葉の文化的背景である中国社会の諸相を幅広く視野に納め、中国文化をより身近なものにするよう工夫し、必要に応じて中国の映画などビデオ教材も利用する予定です。</p>					

授業時間外学修（事前・事後学修） / Independent Study Outside of Class	
中国語の運用能力を向上させる授業ですから授業時間程度の予復習は必須です。予習・復習の仕方は授業中に指示します。	
キーワード / Keywords	外国語 中国語 コミュニケーション
履修上の注意 / Notices	辞書は必要なので、後の参考書・辞書にあげる辞書のうち一つを必ず買うこと。開講時間が変更になる場合があるので、掲示・連絡に注意してください。
教科書・参考書等 / Textbooks	<p>教材はCALL教材・eラーニング教材を使いますので、教科書はいりません。</p> <p>辞書 「中日辞典」（小学館） 「現代中国語辞典」（光生館） 「中国語辞典」（白水社） 「中日辞典」（講談社） 「クラウン中日辞典」（三省堂） 「東方中国語辞典」（東方書店） ・「中日辞典」を収録した各種電子辞書もお薦めします。</p> <p>参考書 守谷宏則「やさしくくわしい中国文法の基礎」（東方書店） 相原茂・石田知子・戸沼市子「Why?にこたえるはじめての中国語の文法書」（同学社）</p> <p>語学学習ソフトウェア（アルク・ネットアカデミー2）「中国語コース」ヘルンシステムのアカウントでログインできます。自学自習に役立ててください。富山大学トップページ（在学生タブ）の語学学習ソフトウェアのリンク又は下記のアドレスからアクセスできます。 http://www.u-toyama.ac.jp/jp/for/student/alc_net2.html</p>
成績評価の方法 / Evaluation	授業中の小テスト50% 期末まとめ50%
関連科目 / Related course	外国語演習（中国語）・中国語コミュニケーション 人文学部
リンク先URL / URL of syllabus or other information	
備考 / Notes	中国語教務担当教員・福田（教養教育院）にお問い合わせください。なお授業の欠席等は、直接担当教員に連絡してください。 連絡先 fukuda@ctg.u-toyama.ac.jp 076-445-6293

授業科目名(英文名) / Course title	ラテン語 B 4 / Latin B				
担当教員(所属) / Instructor	佐藤 真基子 (教養教育院)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 共通基礎科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	演習科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 後期 月 / Mon 2	対象所属 / Eligible Faculty			
時間割コード / Registration Code	104102	対象学年 / Eligible grade	2年 ,3年 ,4 年	単位数 / Credits	1単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact					
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours					
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals	初級ラテン語文法の後半を身につけること。			
3期に開講するラテン語 B 3とあわせて、西欧の古典語であるラテン語文法の基礎を身につけることをめざします。 西欧の言語の歴史において、イタリア語、スペイン語、フランス語など、いわゆるロマンス語系諸言語の母体となったラテン語は、長い間、西欧の学問に共通の言語として使用されてきました。さらに、植物や動物の学名にも使われ、英単語や英語表現のなかにも、ラテン語に由来するものが数多く含まれています。したがって、ラテン語文法の学習は、自然科学を研究するひとにも、西欧の歴史や文学、言語を研究するひとにも、それぞれの研究において大いに力となります。					
達成目標 / Course Goals	初級ラテン語文法の後半を身につけ、最終的に平易なラテン語が読めるようになることをめざします。				
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule	前期のラテン語 B 3を引き継ぎ、全29課からなる教科書の第15課から始めて、最終課までたどりつくよう進めていきます。毎回、文法事項の要点を説明したうえで、各章の末尾の練習問題を宿題として課し、次回にいいいに解答するというやりかたで、授業を進めていきます。また、時間の余裕があれば、何回か小テストを行います。				
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class	事前学修：教科書の新しく進む章にあらかじめ目をして授業に臨むこと。 事後学修：各回の学習内容を復習して、不明な点があれば次回質問するよう準備すること。章末の練習問題に取り組むこと。				
キーワード / Keywords	ラテン語初歩、ラテン語、ラテン語文法				
履修上の注意 / Notices	受講者は、予習として教科書の新しく進む章にあらかじめ目を通して授業に臨み、授業が終わったら、学び終わった章について、十分に復習しながら、次回の授業までにかかわらず章末の練習問題を解いてくること。				
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書：土岐健治・井阪民子『楽しいラテン語』(教文館) 推薦図書、その他参考書については、授業の中で紹介します。				
成績評価の方法 / Evaluation	宿題の達成状況ならびに小テストの結果に基づいて評価します。				
関連科目 / Related course	ラテン語 B 3				
リンク先URL / URL of syllabus or other information					
備考 / Notes	ラテン語 B 3の受講者か、それと同等のラテン語初等文法の知識を有する者のみ受講可能。				

授業科目名(英文名) / Course title	ドイツ語 B (4) / German B				
担当教員(所属) / Instructor	阿部 美規(人文学部)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 共通基礎科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	演習科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 後期 月 / Mon 4	対象所属 / Eligible Faculty			
時間割コード / Registration Code	104103	対象学年 / Eligible grade	2年 ,3年 ,4年	単位数 / Credits	1単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	阿部 美規(yoshiabe@hmt.u-toyama.ac.jp)				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	阿部 美規(前期:木曜13:00-14:00,後期:木曜15:00-16:00)				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
緊急の連絡も、この欄を用いて行います。					
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
『千と千尋の神隠し』をドイツ語で読む(ドイツ語中級講読・会話)					
達成目標 / Course Goals					
辞書を用いながら、中規模以上のドイツ語テキストの要点を正しくつかむことができる。日常会話レベルの表現を理解でき、また自らも用いることができる。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
授業の形式:					
<p>初級ドイツ語を履修済みの人を対象としたドイツ語中級講読の授業を行います。</p> <p>授業では、CD、DVDなどを用いて講読テキストのドイツ語音声を数回聞いた後、パートナー練習・グループ練習で繰り返し音読することで、ドイツ語の発音・リズム・イントネーションに慣れ親しんでもらいます。</p> <p>また、テキスト解釈の際には、初級授業で習得した文法事項・語彙の再確認を行いつつ、初級では習わなかったより高度な文法事項についても詳しく解説し、読解力の向上を図ります。</p> <p>講読テキストとしては、映画『千と千尋の神隠し』(ドイツ語吹き替え版)の音声をトランスクリプトしたものを我们用います。毎回、映画から10分程度のシーンを取り上げ、そのシーンのドイツ語の発音練習および訳読を行い、その上で同じシーンをDVDで見て確認し、あわせてドイツ語のリスニング練習をも行う予定です。</p>					
スケジュール:					
第1回 オリエンテーション					
第2回 シーン1					
第3回 シーン2					
第4回 シーン3					
第5回 シーン4					
第6回 シーン5					
第7回 中間まとめ					
第8回 シーン6					
第9回 シーン7					
第10回 シーン8					
第11回 シーン9					
第12回 シーン10					
第13回 シーン11					
第14回 シーン12					
第15回 総まとめ					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
<p>テキスト中の知らない単語は事前に辞書で調べておいてください。</p> <p>テキストの音読を授業前に最低3回はしておいてください。</p> <p>授業中にうまく発音できなかった箇所、理解できなかった事柄は、授業後まずは自分で再度練習したり、参考書などを調べて解決に努めてください。自力で解決できなかった場合は、次の授業後などに担当教員に質問するようにしてください。</p>					
キーワード / Keywords	ドイツ語 中級 講読 会話 千と千尋の神隠し 映画翻訳				

履修上の注意 / Notices	<p>自らの専門分野でドイツ語が必要（になりそう）な人はもちろん、1年生のときに学んだドイツ語に更に磨きをかけたい人、せっかく学んだドイツ語を忘れてしまいたくない人、日本の映画がどのようにドイツ語に訳されているのかに関心のある人など、積極的にドイツ語を学ぼうとする人の受講を歓迎します。</p> <p>「授業計画」の中に記した通り、パートナー練習、グループ練習などで大きな声を出しての音読を繰り返し行います。このような練習方法を敬遠しがちな人は受講しないでください。</p>
教科書・参考書等 / Textbooks	<p>初回授業で指示します。また、必要に応じて授業担当教員が作成したプリントを配布します。</p> <p>授業には独和辞典も持ってきてください。電子辞書や見出し語数5-6万の初学者向けの辞書ではなく、見出し語数10万語以上の中級者以上向けの紙の（！）辞書を準備してください。『小学館独和大辞典』、『新現代独和辞典』などを推薦します。</p>
成績評価の方法 / Evaluation	平常点（出席、授業での発表など）50%と期末テスト50%
関連科目 / Related course	
リンク先URL / URL of syllabus or other information	
備考 / Notes	

授業科目名(英文名) / Course title	ドイツ語 B (4) / German B				
担当教員(所属) / Instructor	Wolfgang Zoubek(人文学部)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 共通基礎科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	演習科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 後期 水/Wed 4	対象所属 / Eligible Faculty			
時間割コード / Registration Code	104303	対象学年 / Eligible grade	2年 ,3年 ,4年	単位数 / Credits	1単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	Wolfgang Zoubek(zoubek@hmt.u-toyama.ac.jp 研究室：人文学部4階)				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours					
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
会話と作文の応用力を身につける。					
達成目標 / Course Goals					
1. 自由な会話ができる。 2. 自由作文を書くことができる。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
各受講生の理解を考慮して柔軟なスケジュールを組みたいと思っている。					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
毎回宿題を出すので、必ずやって次の授業に臨むこと。					
キーワード / Keywords	ドイツ語 外国語 会話 作文 異文化理解				
履修上の注意 / Notices	ドイツ語の基礎を学んだ者。ドイツ語 B (3) を履修した者と同等の能力のある者。				
教科書・参考書等 / Textbooks	佐藤修子ほか『Szenen 2 integriert CD付きスツェーネン2: 場面で学ぶドイツ語』三修社				
成績評価の方法 / Evaluation	中間試験、期末試験、受講の態度				
関連科目 / Related course					
リンク先URL / URL of syllabus or other information					
備考 / Notes					

授業科目名(英文名) / Course title	ロシア語 B (4) / Russian B				
担当教員(所属) / Instructor	カザケーヴィチ マルガリータ アレクサンドロヴナ(人文学部)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 共通基礎科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	演習科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 後期 金 / Fri 3	対象所属 / Eligible Faculty			
時間割コード / Registration Code	104501	対象学年 / Eligible grade	2年 ,3年 ,4年	単位数 / Credits	1単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	カザケーヴィチ マルガリータ アレクサンドロヴナ (margaritak22@gmail.com margarit@hmt.u-toyama.ac.jp)				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	カザケーヴィチ マルガリータ アレクサンドロヴナ((木) 16:15 - 17:45)				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
達成目標 / Course Goals					
1. 2. 3. 4.					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
1. 2. 5. 6. 7. 8. ?					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
キーワード / Keywords					
履修上の注意 / Notices					
教科書・参考書等 / Textbooks					
1. () 2.					
成績評価の方法 / Evaluation					
関連科目 / Related course					
リンク先URL / URL of syllabus or other information					
備考 / Notes					

授業科目名(英文名) / Course title	朝鮮語 B (4) / Korean B				
担当教員(所属) / Instructor	上保 敏(人文学部)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 共通基礎科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	演習科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 後期 金 / Fri 3	対象所属 / Eligible Faculty			
時間割コード / Registration Code	104502	対象学年 / Eligible grade	2年 ,3年 ,4年	単位数 / Credits	1単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	上保 敏(人文学部2階216号室, joho@hmt.u-toyama.ac.jp)				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	上保 敏(火曜日 10~16時)				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日 2017/07/31				
シラバスを刷新しました。					
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
朝鮮語を1年程度学習した学生,あるいは,それと同等の語学力を持つ学生を対象にし,朝鮮語運用能力の躍進をはかります。今学期は,現代のソウルの朝鮮語話者が好んで用いる口語表現について,短い会話のパターンを通じて習得していきます。					
達成目標 / Course Goals					
朝鮮語の運用能力を高める。 朝鮮語の口語表現について習得し,会話能力,コミュニケーション能力を高める。 現代のソウルの話者の朝鮮語の特徴について身につける。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
第1回 授業概要の説明 第2回-第14回 現代のソウルの話者が好んで用いる口語表現について,短い会話のパターンを通じて学び,朝鮮語の会話能力,コミュニケーション能力を高めていきます。 第15回 まとめ					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
授業中に与えられた課題に取り組む。 授業中に学んだ事項を復習する。					
キーワード / Keywords	朝鮮語 中級 会話 口語 コミュニケーション ソウル				
履修上の注意 / Notices					
教科書・参考書等 / Textbooks	授業中に指示する。				
成績評価の方法 / Evaluation	授業への取り組みとその成果。				
関連科目 / Related course					
リンク先URL / URL of syllabus or other information					
備考 / Notes					

授業科目名(英文名) / Course title	英語 B (4) / English B				
担当教員(所属) / Instructor	赤尾 千波(人文学部)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 共通基礎科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	演習科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 後期 金 / Fri 4	対象所属 / Eligible Faculty			
時間割コード / Registration Code	104504	対象学年 / Eligible grade	2年 ,3年 ,4年	単位数 / Credits	1単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	赤尾 千波(Office: No. 223, Faculty of Humanities Office phone number: 0764456221)				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	赤尾 千波(Spring Semester: Tuesday 13:30 - 14:30/Fall Semester: Friday 13:30 - 14:30/By appointment)				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
この授業は各学部・各学年の学生の皆さんのための授業です。英語力も学習方法も、ひとと違って当たり前です。おのおの、自分なりに工夫したプレゼンをして、実力を伸ばして行くことを目標にしましょう。					
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
<p>1. アクティブラーニング形式で英語力をつける 受講生は、教員の模擬プレゼンテーションと講義を聞いた後、各自で「映画で楽しく英語学習」のプレゼンテーションをおこなう。受講者がプレゼンテーションをやることより、次の二つを理解する。 (1) 映画を使っての様々な英語学習法 (2) プレゼンテーションの基本</p> <p>2. 英語チャンツを実践し、自然に発声するテクニックを習得する。</p> <p>* 映画や英語の音楽は、漫然と視聴するだけでも英語力はつきますが、台本や解説書、歌詞カードを読むとより効果的に学習できます。また、「映画や音楽を用いての英語学習法」を自分なりにプレゼンテーションすることは、意識して勉強することにつながります。また、こういう勉強法もあるのか!とお互い参考になるものです。臆せずに、自由にプレゼンをやってみましょう。聞き取りなどの問題を作ってもいいです。一人でも、グループで行ってもかまいません。きばつなプレゼンでもかまいません。</p>					
達成目標 / Course Goals					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 映画や音楽を用い自分なりに英語力を伸ばして行くことができる。 ・ 英語または日本語で「映画・音楽を用いて英語学習」という実践的テーマで各受講者が一回から二回プレゼンテーションをおこなう。 ・ 学期の終わりには、よいプレゼンテーションとはどのようなものかを理解し、プレゼン苦手意識(あれば)を突破する。(一回目からすばらしいプレゼンができなくてもよい。) ・ 講義とプレゼンを聞いて、自分にあった英語学習法や英語教材はどんなものかを知り、通学時間や余暇に映画等を使って一人で楽しく英語力を伸ばしていくコツを習得する。 					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
<p>1回目: 授業の進め方および、扱う映画とテキスト(チャンツの本)の説明 教員によるプレゼンテーション</p> <p>2回目: 英語学習に適した映画や音楽の紹介 参考図書 教員によるプレゼンテーションその2</p> <p>3回から14回目までは、次の三つを柱に進めます。 (1) 受講者によるプレゼンテーション(グループでのプレゼン可) (2) チャンツの実践。テキストにそって、一回の授業で1ユニットずつ実施します。 (3) ときどきプリントを配布(おもに聞き取り問題)</p> <p>15回目: まとめとディスカッション</p> <p>* 去年度の英語Bで扱ったのと同じ映画やTV番組や音楽を用いてかまいません。</p>					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					

プレゼンテーションの準備をする。配布資料を作ったり、パワーポイントを作成するなど、各自くふうする。	
キーワード / Keywords	英語 映画 音楽 聴解 会話 プレゼンテーション グループ発表 チャンツ アクティブ・ラーニング
履修上の注意 / Notices	<p>・映画を見るための授業ではありません。また、「1度プレゼンテーションを済ませたあとはリラックスしていい」わけではありません。常に積極的に参加してください。授業への参加状況によっては、プレゼンをしても不可となることがあります。</p> <p>・チャンツのテキストにはCDがついています。授業では、プレゼン前の準備体操のように使います。</p>
教科書・参考書等 / Textbooks	<p>テキスト 高橋一幸他著『CDブッケー基礎英語チャンツで楽習！決定版』（NHK出版 2008年 1728円 ISBN978-4-14-039475-5）</p> <p>参考書 赤尾千波著『アメリカ映画に見る黒人ステレオタイプ』（梧桐出版 2015年 1840円）</p>
成績評価の方法 / Evaluation	<p>・授業への参加態度（プレゼンテーションとディスカッション）80パーセント、プリント学習の出来栄を20パーセントとして、総合的に判断。</p> <p>・様々な学部、学年の受講者がいることを考慮し、各自がどれだけ工夫し、自発的に学んだかを基準に評価。</p>
関連科目 / Related course	
リンク先URL / URL of syllabus or other information	<p>赤尾研究室HP http://www.hmt.u-toyama.ac.jp/eibei/Akao/index.htm * 「教育活動」の「発表ハンドアウト見本」を参考にしてください</p> <p>研究発表のユニバーサルデザイン http://tsutawarudesign.web.fc2.com/ * プレゼンテーションの際、参考にしてください。</p>
備考 / Notes	

授業科目名(英文名) / Course title	フランス語B(4) / French B				
担当教員(所属) / Instructor	梅澤 礼(人文学部)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 共通基礎科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	演習科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 後期 金 / Fri 4	対象所属 / Eligible Faculty			
時間割コード / Registration Code	104505	対象学年 / Eligible grade	2年 ,3年 ,4年	単位数 / Credits	1単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact					
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours					
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
<p>フランス語の初級を終えて、もっとフランス語を学びたくなった人のために。 フランス語で書かれたやさしい文章を読みながら、過去形や未来形といった初級～中級文法を学びます。 毎回2ページほどの長文ですが、意外と簡単に理解できて驚くかもしれません。 語彙や表現も増えますし、フランスの地理や文化を説明した教材を使うので、きっともっとフランスが好きになるでしょう。</p>					
達成目標 / Course Goals					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 中級文法を定着させることができる。 2. 長文読解に慣れることができる。 3. 語彙や表現を増やすことができる。 4. フランスの地理や文化を学ぶことができる。 					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
第1回 インTRODクシヨン、関係代名詞 第2回 ブルゴーニュの地理 第3回 ブルゴーニュの食と観光 第4回 条件法 第5回 プロヴァンスとコルシカの地理 第6回 プロヴァンスとコルシカの食と観光 第7回 単純未来 第8回 オック地方の地理 第9回 オック地方の食と観光 第10回 半過去 第11回 ロワールの地理 第12回 ロワールの食と観光 第13回 フランス海外県の地理 第14回 フランス海外県の食と観光 第15回 到達度認証試験、解説					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
毎回の復習を必ず行ってください。およそ2時間程度かかります。					
キーワード / Keywords	フランス語、中級文法、読解、地理、文化				
履修上の注意 / Notices	これまでに学んだ初級文法を復習しておくこと。 宿題はそれほど出さないつもりなので、授業中はしっかりノートを取って、復習に力を入れるように。				
教科書・参考書等 / Textbooks	Fabienne Guillemin 『フランス、地方を巡る旅』、駿河台出版社、ISBN978-4-411-01352-1 C1085 辞書(紙のものでも電子辞書でも可)				
成績評価の方法 / Evaluation	出席および平常点50%、到達度認証試験50%				
関連科目 / Related course					
リンク先URL / URL of syllabus or other information					
備考 / Notes					